

合理的配慮を踏まえた支援ガイドブック

生徒の特性に応じた
コミュニケーション能力を引き出す支援を行うために



ガイドちゃん

合理的配慮の考え方、
コミュニケーションが困難な状況での関わり方の工夫(例)
などを掲載しています。



合理的配慮を踏まえた支援ガイドブック

生徒の特性に応じた
コミュニケーション能力を引き出す支援を行うために

はじめに 支援ガイドブックについて

この支援ガイドブックは、合理的配慮を踏まえ、生徒のコミュニケーションが困難な状況は、環境との相互作用によって改善されるという考えに立ち、教職員が生徒と関わる時に工夫できる支援の例を示したものです。①では、誰にでも起こり得るコミュニケーションが困難な状況の理解について、②では、合理的配慮の考え方について、③では、コミュニケーションが困難な状況での関わり方の工夫（例）について示しています。支援ガイドブックは、どこからでも読み進めることができる構成になっています。

これからの共生社会に向けて、私たち教職員が合理的配慮の考え方や、環境との相互作用の視点での関わり方の工夫について理解することは、とても大切です。ここに掲載している支援を例として、教職員が目目の前の生徒の特性に応じて関わり方を工夫して活用していただきたいと考えています。そして、生徒一人一人に応じたコミュニケーション能力を引き出すような関わり方を、私たちが工夫することにより、生徒が学習内容が分かり、学習活動に参加している実感・達成感を持つことができればと思います。

平成27年 3 月

私はガイドちゃん。
支援ガイドブックのポイントをご案内いたします。



ガイドちゃん

支援ガイドブック 目次

① コミュニケーションが困難な状況の理解

- 1 誰にでも起こり得るコミュニケーションが困難な状況・・・2
- 2 コミュニケーションとは・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
- 3 環境の捉え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

② 合理的配慮の考え方

- 1 合理的配慮に関する法制度等・・・・・・・・・・・・12
- 2 合理的配慮を踏まえること・・・・・・・・・・・・13
- 3 合理的配慮を踏まえた支援の考え方・・・・・・・・14

③ コミュニケーションが困難な状況での関わり方の工夫 (例)

- 1 自分の思いや考えを相手に伝えることが難しい状況・・・18
- 2 自分の思いや考えを場を考えずに話してしまう状況・・・28
- 3 相手の話を最後まで聞くことが難しい状況・・・・・・・・32
- 4 相手から言われていることの意味を理解することが
難しい状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
- 5 相手の言葉を字義通りに受け止めてしまう状況・・・44

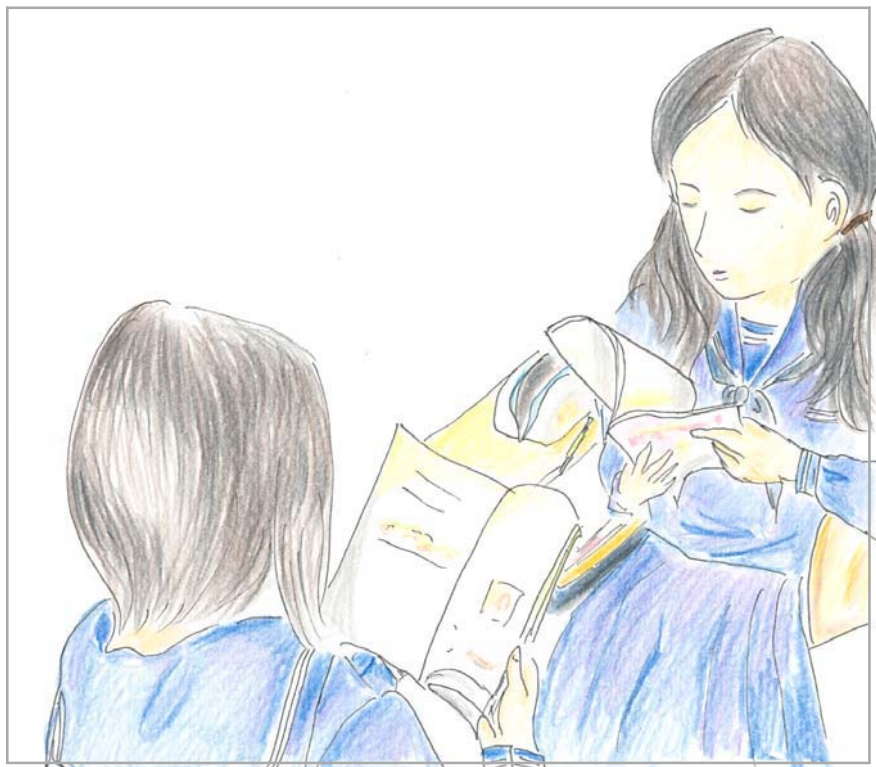
[資料]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49

コラム

- ◆授業のユニバーサルデザイン
どの子も楽しく「わかるできる」授業・・・・・・・・43
- ◆診断より支援を先にする「RTIモデル」とは？・・・・55
- ◆「飛び跳ねる思考」—挨拶—・・・・・・・・・・・・56

引用文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57
参考文献・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57

① コミュニケーションが困難な状況の理解



1 誰にでも起こり得るコミュニケーションが困難な状況

みなさんは、コミュニケーションが困難な状況になったことはありませんか。コミュニケーションが困難な状況は誰にでも起こり得ます。次の【例1】から【例3】を見てみましょう。

【例1】

外国の方とコミュニケーションを行う必要がある。

私たちが海外に行って現地の人とコミュニケーションをとることを想像してみてください。レストランに入って、メニュー表が外国語だけで書かれていたとします。外国語が堪能であれば、この状況で料理を注文するとしても、さほど問題はありません。しかし、私たちが、外国語が堪能ではない場合、メニュー表の文字が示す料理を想像することも、注文を取りに来た現地の店員にメニューに書かれている料理について聞くことも難しくなります。言葉が通じない外国人の集団に入ったら、自分の考えや思いを何のツールもなく話すことだけで相手に伝えるのは大変なことです。

外国の方とコミュニケーションをとりやすくするためのアプローチ

レストランに入った時に、メニュー表が写真つきで提示されたらどうでしょう。言葉が通じなくても、写真があれば、料理をイメージできます。そして、自分が食べたいという意思を話し言葉ではなく、メニュー表の写真を指差すことで伝えることができるのです。つまり、言葉が通じない外国人の集団に入ったら、絵や写真等の他、タブレット端末やスマートフォン、電子辞書等のテクノロジーを用いることで、コミュニケーションが円滑に行われることが考えられます。英語での情報は、街の様々なところに、様々な形で示されています。それらの単語を、タブレット端末等のツールを用いて調べ、意味を理解することもできます。



②



友人と二人で海外旅行に行きました。

あのレス
トランで
食べない
?

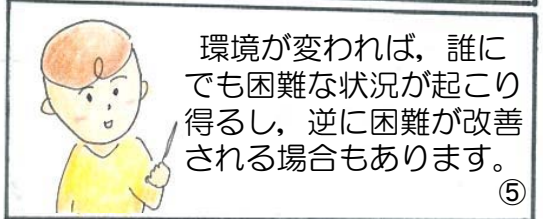
いいね。

①



どんな料理か
よく分からな
いわ。

③



環境が変われば、誰に
でも困難な状況が起こり
得るし、逆に困難が改善
される場合もあります。

⑤



④



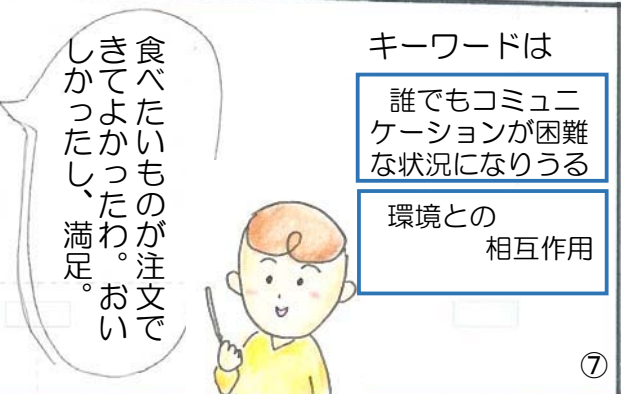
例えば、写真付きのメニュー表なら、
どんな料理がわかります。

その写真を指差し、意思を伝えることができます。

⑥



写真があつて
よかつた。



食べたいものが注文で
きてよかつたわ。おい
しかったし、満足。

キーワードは

誰でもコミュニ
ケーションが困難
な状況になりうる

環境との
相互作用

⑦

【例 2】

風邪で声が出ないのに、仕事上のプレゼンテーションを行う必要がある。

誰でも風邪をこじらせて喉が痛くて声が出なくなった経験があると思います。その時を想像してみましょう。どのようにしてコミュニケーションをとるでしょうか。筆談や指差し、ジェスチャー等で何とかなると思う人が多いかもしれません。しかし、仕事上のプレゼンテーションをする必要があるなら、話すことで自分の意思を伝えることがとても大きなストレスとなり、大変なことです。

〈引用文献〉中邑賢龍著 「AAC入門 コミュニケーションに困難を抱える人とのコミュニケーションの技法」 ころりソースブック出版会 平成 26 年 5 月

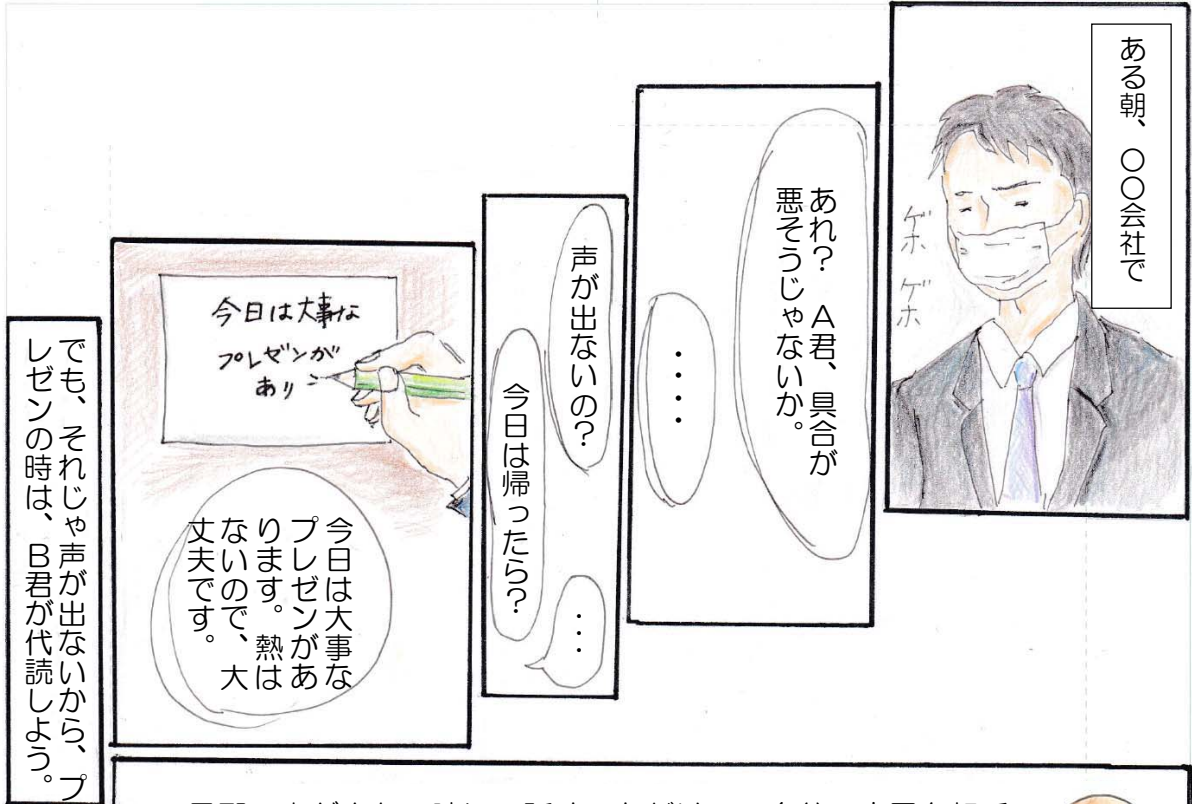
声が出ないときにコミュニケーションをとりやすくするためのアプローチ

筆談や電子メール、こちら側の質問に対し、Yes/Noで意思を伝えるコミュニケーション等、いくつかの方法が浮かんでくると思います。ここで浮かんでくるのは、音声の代替や拡大手段です。さらに詳しく手段を考えると、音声の代替手段としては、指差し（遠くのもの指し示す場合は、レーザーポインターを使うとストレスのない指示ができます。）、筆談、文字盤・キーボード、Fax、電子メール等、あらかじめよく利用するメッセージ等を集めて整理し、印刷したコミュニケーションボードやコミュニケーションブック、音声の拡大手段としてはマイク等の活用によりコミュニケーションが改善します。

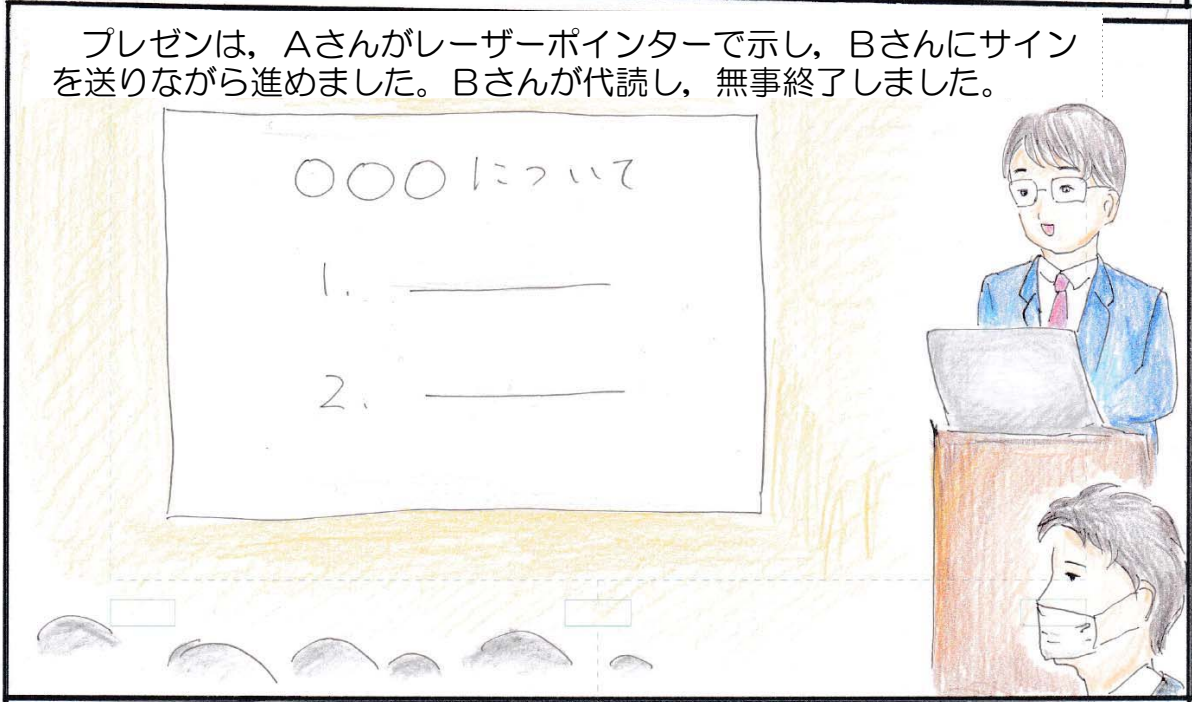

〈引用文献〉中邑賢龍著 「AAC入門 コミュニケーションに困難を抱える人とのコミュニケーションの技法」 ころりソースブック出版会 平成 26 年 5 月

私達も代替手段を用いて、コミュニケーションが困難な状況を改善させることができます。





風邪で声が出ない時に、話すことだけで、自分の意思を相手に伝えることは、とても大変です。声が出ないことを何とかしようとするのではなく、音声の代替手段を工夫することで、コミュニケーションの困難な状況を改善することができます。



【例 3】

相手の話が早口である状況で、全ての内容を記録する必要がある。

講演で、内容を鉛筆とノートを用いて、記録しなくてはならないとします。しかし、講師の先生が早口で、内容をノートに記録するのが難しかったらどうでしょうか。講師の先生が話している速さでノートに文字として書くことが間に合わない状況で、次の話題になってしまい、記録も途中までの曖昧なものになってしまいます。書くことが間に合わないという経験は、誰もがあの経験ではないでしょうか。

相手の話している内容をノートに書くことができないときのアプローチ

ICレコーダーで録音するといった工夫を行うことがあります。このICレコーダーで録音するという解決手段は、「字が見えない、話していることを聞き取れない、字を覚えていない、鉛筆を握れない、何が要点か理解できない」といった困難な状況があてはまる人にも利用できる代替手段でもあるということです。

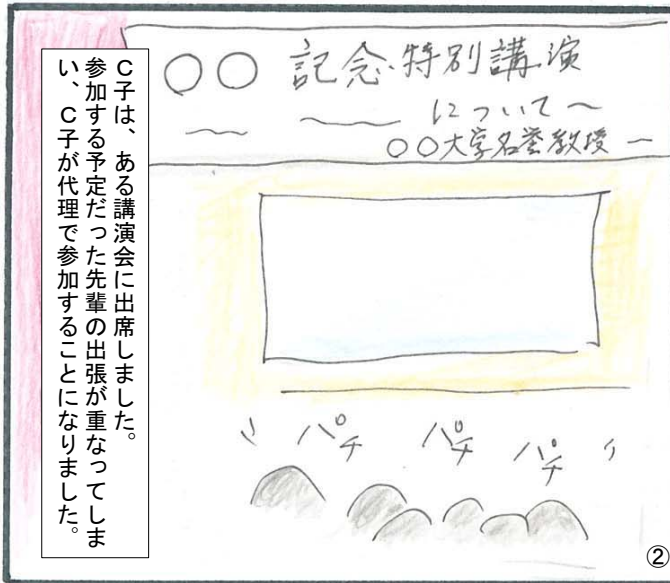
コミュニケーションが困難な状況は...

- ・ 個人と環境との相互作用によって変化する。
- ・ 環境を整えるだけで改善されることがある。

コミュニケーションが困難な状況では...

- ・ 困難さに着目すれば、共通項が明らかになり、支援がみえてくる。
- ・ 困難さに着目するアプローチにおいては、誰もが同じようにという考えではなく、代替という発想が必要である。





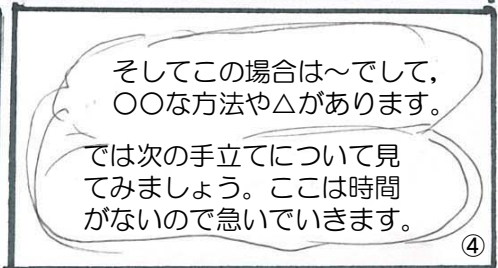
C子は、ある講演会に出席しました。参加する予定だった先輩の出張が重なってしまい、C子が代理で参加することになりました。



先程ご紹介いただきました〇〇大学の△△です。今日は〇〇についてのお話をさせていただきます。



先輩の代理…。しっかりとメモをとって後で渡さなくちゃ。



そしてこの場合は～でして、〇〇な方法や△があります。では次の手立てについて見てみましょう。ここは時間がないので急いでいきます。



相手の話しているすべての内容を、ノートに文字として書くことが難しい場合

ICレコーダーで録音するといった工夫を行うことができます。



話すスピードが速すぎて、全てメモできないわ。

ICレコーダーで録音することは…

字が見えない	話していることを聞き取れない	字を覚えていない
鉛筆を握れない	何が要点か理解できない	

このような状況の人にも利用できる代替手段でもあります。

自分の困難さを例に考えてみると、様々な支援がみえてきます。

中邑賢龍氏は、学習に遅れが生じた子どもたちが努力だけで学習上の困難を解決することは難しいことであり、何らかの配慮を提供してはじめて、同じスタートラインに立つことができることを述べています。「近視の子どもが眼鏡をかけないと黒板の字が見えないのと同じように、書くことに障害のある子どもは大きな努力をしても他の子どもと同じレベルで書けるようにならない場合」があると示しています。生徒の生活上、学習上の困難について他の人と同じようにできることを求めることばかりではなく、環境との相互作用の視点での関わり方を工夫することが必要であると考えます。関わり方を工夫する際には、アシスティブテクノロジーの活用も環境との相互作用の一つとなります。

AT（アシスティブテクノロジー）として活用できる身近な機器と主な機能

コンピュータ	音声言語、文字言語での情報提供、動画の再生、プレゼンテーション
デジタルカメラ	撮影、録画
タブレット型端末	写真撮影、録画、動画の再生、プレゼンテーション、学習ソフトのダウンロード、メモ、スケジュール管理
ボイスレコーダー	音声言語の録音
ドキュメントスキャナ	印刷物のデータ化
スマートフォン	時間の計測、計算、音声言語や文字言語によるメモ、写真撮影
電子辞書	音声読み上げ機能、英単語、日本語の意味調べ、電卓、カレンダー、時計、録音
タイマー	時間の計測
デジタル教科書	デジタル機器や情報端末向けの教材のうち、既存の教科書の内容と、それを閲覧するためのソフトウェアに加え、編集移動、追加、削除等の基本機能を備える。
電子黒板	ペンや指で書くことができる。書いた文字を動かせる。図がかける。文字や絵を拡大することができる。

AT（アシスティブテクノロジー）とは

障害による物理的な操作上の困難や、障壁（バリア）を、機器を工夫することによって支援しようという考え方が、アクセシビリティあるいはアシスティブテクノロジーである。これは障害のために実現できなかったこと（Disability）をできるように支援する（Assist）ということであり、そのための技術（Technology）を指している。

文部科学省「障害のある児童生徒の教材の充実について 報告」(平成 25 年 8 月 28 日)

アシスティブテクノロジー(AT)は、環境との相互作用の視点で関わり方を工夫する時に活用できます。



2 コミュニケーションとは

上野一彦氏は、「コミュニケーションとは、聞く・話すなどの音声言語、読む、書くなどの文字言語、身振り、絵などの非言語的手段等によって意思・感情・情報を伝え合う行為」と示しています。

コミュニケーションは意思や感情、情報を伝え合うことであり、相手との双方向のやり取りによって成立します。そのため、コミュニケーションの困難な状況では、相手の理解や配慮があれば、その状況は改善されると考えてみましょう。相手から言われていることの意味を理解することが難しい状況であれば、本人が分かりやすいように、話し言葉とともに絵や文字を用いることでこちらの意思が伝わりやすくなることはありませんか。本人を変えるのではなく、周りの人がコミュニケーションが困難な状況をどれだけ理解し、配慮をするのが大切です。

**コミュニケーションは、意思、感情、情報を伝え合うこと。
伝え合うためには、相手を意識して、伝えることが大切です。**



中邑氏は、Mehrabian (1971)の研究によれば、音声で発した言葉（言語情報）と、声の強さ、抑揚、顔の表情（非言語情報）に矛盾が生じた場合、例えば、「いいよ」と言葉では承認しているのに顔の表情は険しく否定的であるといった時には、非言語情報の方が大きな影響を及ぼすという結果を示していると言っています。そして、非言語情報の影響の大きさを理解しておく必要があると示しています。コミュニケーションは、音声や文字によるものに加え、非言語的手段も同時に用いられることも日常ではよくあります。非言語的手段を用いたコミュニケーションも視野に入れ、関わり方を工夫することが必要であると考えます。

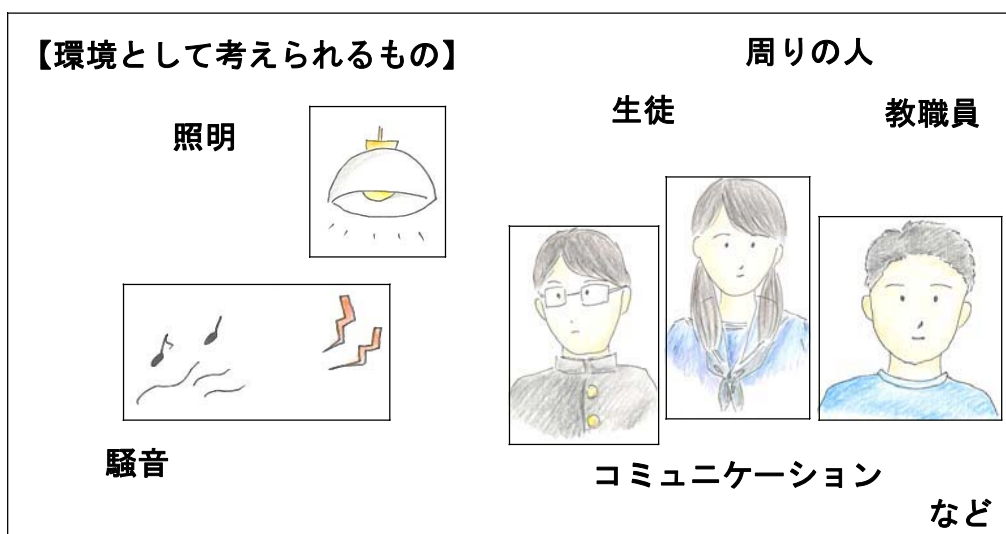
音声言語と非言語情報(声の強さ、抑揚、顔の表情)を一致させること、非言語情報の影響を理解しておくことがポイントです。



3 環境の捉え方

環境について

中邑氏は、「多くの人に生活しやすい環境が状況によってはそうではない場合もある」とし、「自分で主張できない、その環境から逃れられない人に対しては、照明や騒音も場合によっては個別に検討し、支援者がそのことを認識して常に**適切な環境を整える必要**」を述べています。ここでの環境には、照明や騒音等の視覚的、聴覚的な刺激の他に、人との関わり、すなわちコミュニケーションも含まれると考えます。



音楽の鳴り響く場所や、大勢の人が集まる場所でコミュニケーションをとることは疲れるものです。それでも、多くの方は逃げ出さずにそのような場所での催し物に参加することは可能です。中邑氏は、「中には、騒音が耐えられない人もいます。また、過敏性があるために、多くの方が気にならない刺激に過剰に反応する人もいます。例えば、部屋の音や匂いが気になってコミュニケーションができなくなる人がいます。」と示しています。

中邑氏は、こんな時、本人に努力を求めても問題は改善されないばかりか、時にはパニックなどの問題に結びつくことがあること、一方、環境を整えるだけで問題が改善されることがあることを述べています。

環境を整えるだけで問題が改善されることがあります。



② 合理的配慮の考え方



1 合理的配慮に関する法制度等

日本は平成19年9月に障害者の権利に関する条約（以下「条約」という。）に署名し、平成26年1月に批准しました。条約の第24条教育の2において、「(c) 個人に必要とされる合理的配慮が提供されること」が示されました。条約の締結から批准するまでの間に、中央教育審議会初等中等教育分科会「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」（平成24年7月23日）（以下「報告」という。）では、合理的配慮について示されました。

報告において、合理的配慮とは、「障害のある子どもが、他の子どもと平等に『教育を受ける権利』を享有・行使することを確保するために、学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、障害のある子どもに対し、その状況に応じて、学校教育を受ける場合に個別に必要とされるもの」であること、「学校の設置者及び学校に対して、体制面、財政面において、均衡を失した又は過度の負担を課さないもの」と示しています。

なお、「条約において、『合理的配慮』の否定は、障害を理由とする差別に含まれるとされていることに留意する必要がある。」、「『合理的配慮』は、一人一人の障害の状態や教育的ニーズ等に応じて決定されるものであり、設置者・学校と本人・保護者により、発達の段階を考慮しつつ、『合理的配慮』の観点を踏まえ、『合理的配慮』について可能な限り合意形成を図った上で決定し、提供されることが望ましい」と述べられています。

「合理的配慮」の定義

「障害のある子どもが、他の子どもと平等に『教育を受ける権利』を享有・行使することを確保するために、学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、障害のある子どもに対し、その状況に応じて、学校教育を受ける場合に個別に必要とされるもの」であり、「学校の設置者及び学校に対して、体制面、財政面において、均衡を失した又は過度の負担を課さないもの」と、定義した。なお、「合理的配慮」の否定は、障害を理由とする差別に含まれるとされていることに留意する必要がある。

中央教育審議会初等中等教育分科会「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)」(平成24年7月23日)

2 合理的配慮を踏まえること

資料1は、学校における合理的配慮の観点です。学習内容が分かり、学習活動に参加するためには、生徒の特性に応じて学校における合理的配慮の観点を参考とし、合理的配慮を提供することが求められていると考えます。

これを踏まえ、合理的配慮を踏まえたとは、コミュニケーション能力を引き出す支援を行うために、報告での合理的配慮の観点を参考とすることとします。なお、合理的配慮は一人一人の障害の状態や教育的ニーズ等に応じて決定されるものであることに留意します。

また、学校における合理的配慮の観点についての詳細は、本ガイドブックの[資料]に掲載しています。

資料1 学校における合理的配慮の観点

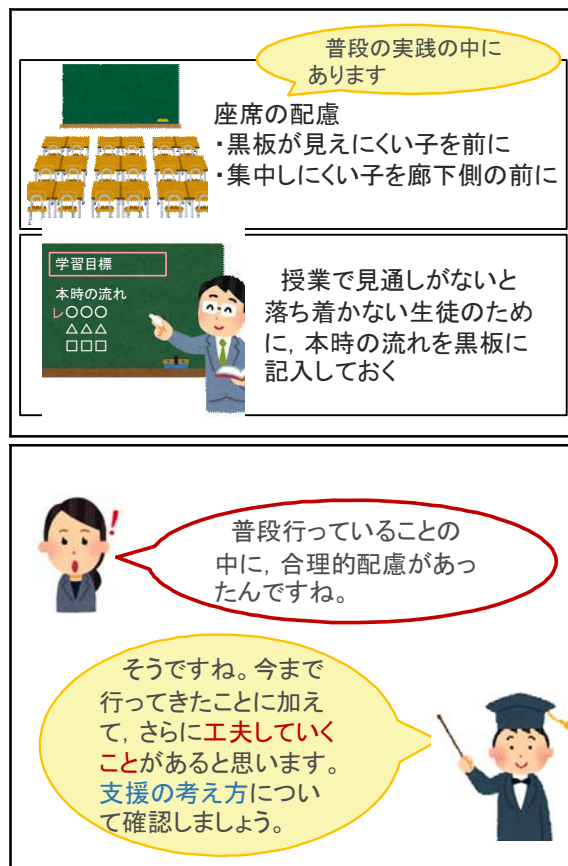
- 1 教育内容・方法
 - 1-1 教育内容
 - 1-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮
 - 1-1-2 学習内容の変更・調整
 - 1-2 教育方法
 - 1-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮
 - 1-2-2 学習機会や体験の確保
 - 1-2-3 心理面・健康面の配慮
- 2 支援体制
 - 2-1 専門性のある指導体制の整備
 - 2-2 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮
 - 2-3 災害時等の支援体制の整備
- 3 施設・設備
 - 3-1 校内環境のバリアフリー化
 - 3-2 発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮
 - 3-3 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮

中央教育審議会初等中等教育分科会「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)」(平成24年7月23日)

3 合理的配慮を踏まえた支援の考え方

資料2は、これまで学校で行われてきた合理的配慮の例です。黒板が見えにくい生徒の座席を前の方にしたり、授業で見通しがないと落ち着かない生徒のために本時の流れを黒板に記入したりする等です。これまで行ってきたことに加え、さらに工夫していくことが大切です。

資料2 これまで行ってきた合理的配慮の例



〈引用文献〉中邑賢龍編著 「発達障害の子を育てる本」
明治図書 平成24年9月

資料3 (p. 15) は、合理的配慮を踏まえた支援の考え方の一つです。全員を同じ土俵にのせることが一つの方法であるということです。これは、**学ぶ機会を均等にすること**につながります。

本人の努力だけでは学ぶことが難しい子を放置することは、支援不足であり、間接的な差別であるということです。例えば、読み書き障害の子どもに対して、テストを受けなくても一生懸命やっていたら合格としてしまうことや、他の子と同じように学ぶことはできないとして、授業や試験を免除すること、努力不足を指摘して「もっと頑張りなさい」とより一層の努力を求めるといったこと等です。

何を平等とするのが大切です。学習の本質的な内容は、物事の内容を理解することです。読んだり書いたり、覚えたりすることは、内容理解に比べれば、本質的とはいえません。困難を抱えている生徒が、この本質的な目的をかなえるチャンスを得られるようにすることが大切です。学習に必要なものは人それぞれであり、土俵にのる、つまり学習や競争のチャンスを得るために必要なものは、生徒によって違うということです。

資料3 合理的配慮の支援の考え方

<p>支援の考え方</p> <p style="background-color: #ffffcc; padding: 2px;">全員を同じ土俵にのせることが支援のひとつの方法である。(学ぶ機会を均等にすること)</p> <p>○何が差別になるのか？ 本人の努力だけでは学ぶことが難しい子を放置することは、支援不足であり、間接的な差別である。</p> <p>〈例：読み書き障害〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テストを受けなくても一生懸命やっていたら合格してしまう(不当な評価) × 他の子と同じように学ぶことはできないとして、授業や試験を免除する。 ・努力不足を指摘して、より一層の努力を求める。 	<p>○何を平等とするのか？</p> <p style="color: red;">学習の本質的な内容は、物事の内容を理解することである。それを読んだり書いたり、覚えたりすることは、内容理解に比べれば、本質的とはいええない。困難を抱えている子が、この本質的な目的をかなえるチャンスを得られるようにすることが大切である。</p> <p>〈必要なものは人それぞれ〉 土俵にのる、つまり学習や競争のチャンスを得るために必要なものは、子どもによって違う。 メガネが必要な子もいれば、支援ツールを必要とする子もいる。</p>
---	---

〈引用文献〉中邑賢龍編著 「発達障害の子を育てる本」 明治図書 平成 24 年9月

資料4は、支援と特別扱いの違いについて示したものです。どこからどこまで支援するのかですが、これはケースバイケースです。視力の弱い子には当然眼鏡が必要です。それと同じように支援ツールを必要とする子もいるということです。何らかの困難を抱えている子が、周囲の人と話し合ったうえでツールを使うことは、特別扱いにはあたりません。むしろ他の子と同じように学習できる状態になり、公平になったといえるということです。

資料4 支援と特別扱いの違い

<p style="text-align: center;"> 支援と特別扱い？</p> <p>何らかの困難を抱えている子が、周囲の人と話し合ったうえでツールを使うことは、特別扱いにはあたらない。むしろ、他の子と同じように学習できる状態になり、公平になったといえる。</p> <p>Q1 どこからどこまで支援するの？</p> <p style="text-align: center;">ケースバイケース</p> <p>個の状態をふまえて、 家族と教師が相談し、 支援の内容を決める。</p>	<p>Q2 なぜ他の子と同じではいけないの？</p> <p>困難がある子は、他の子と同じように学ぶのは難しく、本人の努力では解決しづらいから</p> <p style="text-align: right; color: red;">× 一方的に… 「何も言わなくても支援して当然」 「教師が善意で支援してあげよう」</p> <p style="background-color: #ffffcc; padding: 2px;">合理的配慮は、本人と家族、学校などの関係者が話し合い、形作っていくもの 〈合意形成〉</p> <p style="text-align: right; color: red;">メカ本は必要な子だけ</p>
--	--

〈引用文献〉中邑賢龍編著 「発達障害の子を育てる本」 明治図書 平成 24 年9月

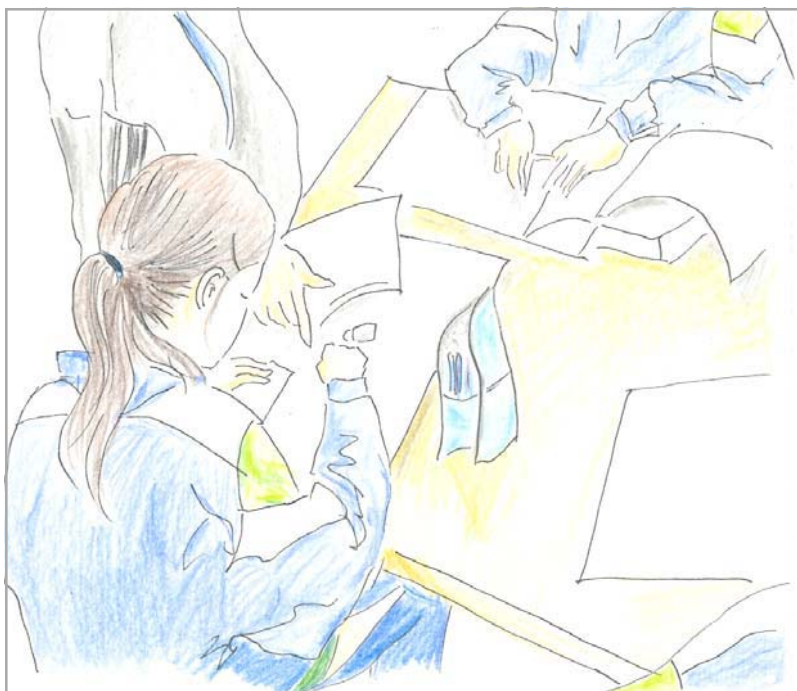
資料5を見てみましょう。支援内容の決定の仕方です。その子の状態を踏まえて、家族と教師が相談し、支援の内容を決めていきます。そして、合理的配慮は、本人、家族が支援を求めるのが基本です。教師が子どものニーズに気づき、家族に支援を提案するケースもありますが、その場合も話し合います。本人が支援は不要といえ、それを尊重する、どこまで対応できるかを話し合い、互いに納得できるポイントを探ることが大切です。

資料5 支援内容の決定の仕方

本人、家族が支援を求めるのが基本

- ・教師が子どものニーズに気づき、家族に支援を提案するケースもあるが、その場合も話し合う。
- ・本人が支援は不要といえ、それを尊重する。
- ・どこまで対応できるかを話し合い、互いに納得できるポイントを探す。

〈引用文献〉中邑賢龍編著 「発達障害の子を育てる本」 明治図書 平成24年9月

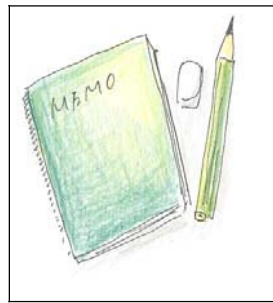


③ コミュニケーションが困難な状況での関わり方の工夫（例）



1 自分の思いや考えを相手に伝えることが難しい状況

自分の思いを相手に伝えられない状況になったことはありませんか。風邪をひいて声が出ない時は、筆談や指差しによって自分の思いを相手に伝えようします。それでもうまく伝えられない時は、絵や写真を用いるのではないのでしょうか。または、声が出る状況でも、自分の考えを相手に伝えることができないことがあります。自分の考えがよく整理できていなかったり、相手から言われていることの意味を理解することが難しい状況になることもあります。この状況においては、「4 相手から言われていることの意味を理解することが難しい状況」で詳しく見ていきます。



ア 考えられる困難の要因

- ・ 言語発達の遅れがあったり、異なった意味理解をしたりする。
- ・ 手順や方法に独特のこだわりがある。
- ・ 数量や言葉等の理解が部分的であったり、偏っていたりする。
- ・ 実際に体験しなければ、行動等の意味を理解することが困難である。
- ・ 学習内容の習得が困難である。
- ・ 文や文章を構成する力が弱い。
- ・ 記憶力が弱い。
- ・ 性格や心理的な課題がある。

イ 関わり方の工夫

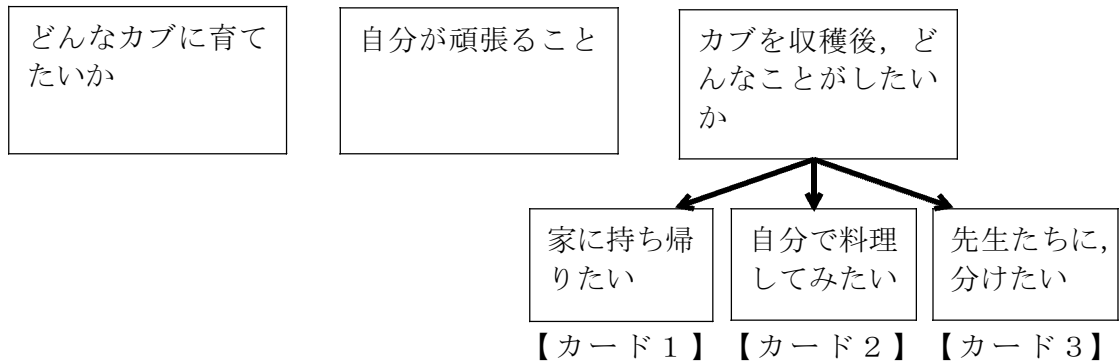
視覚的な情報提示と選択によって支援する。

「音声のみで情報を伝えなさい」というのは、場合によっては、「声の出ない人に、言葉で自分の思いを伝えなさい」といっていることと同じになることがあります。苦手であったり、難しかったりする部分を訓練して伸ばそうとする考え方を否定するわけではありません。しかし、その訓練には長い時間と努力が必要であり、時には長い時間をかけ、訓練したのにも関わらず、その成果があまり得られないかもしれません。また、その間に、相手に自分の思いを伝える意欲すらなくなってしまうかもしれません。指示を待つだけになってしまい、自分から何かをしようとする気持ちも薄れてしまうかもしれません。それよりも、環境との相互作用の視点で関わり方の工夫をすることで、生徒が自分の思いを伝えやすくなることができ、達成感を得られるのではないのでしょうか。

話し言葉に加え、視覚的な情報を提示することや、選択することを加えるだけで、相手の意思を引き出せるようになります。



【例 1】 予想される生徒の思いをいくつか別紙に書いておき、生徒が選択できるようにする。



生徒がカードを選んだ後、それを見て学習プリントに記入することもできます。カードには、相手の状況に応じて、文字だけ、文字とイラスト、文字と写真等の組み合わせが考えられます。そうすることで、目線や指差し、カードの文字（または絵、写真の名前）を読み上げることで、思ったことを相手に伝えやすくなります。また、生徒の意思を引き出すために、カードにどのような情報を載せるかが重要なポイントとなってきます。学習形態によっては、友達の複数の意見を視覚的に提示し、どの意見に近いのかを選択できるようにすることもあるでしょう。グループ学習でプリントに記入する場面は多いでしょう。その際には、グループの他の生徒のプリントを見せて、生徒の考えはどれに近いのか聞いてもよいのです。

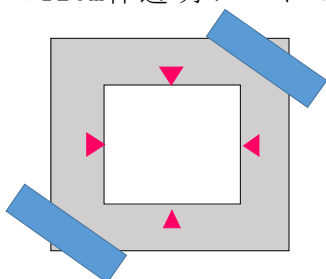
カードの選択は、グループ学習やペア学習で意見を求められた時にも使えます。自分の思いや考えを相手に伝えることができない状況にある生徒に、同じグループやペアの生徒の学習プリントを見せ、自分の考えに近い人の学習プリントを、生徒が指で指すことでも思いや考えを伝え合うことができます。



【例2】 生徒が文字の形を視覚的に確認できるようにする。

定規の使い方に難しさのある生徒が、枠を正しく書くために透明シートを活用する。

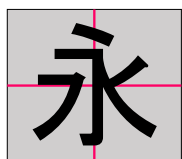
<12cm枠透明シートの作り方>



- ①何も挟まずに、ラミネートした透明シートを作る。
- ②縦12cm，横12cmの四角形を下書きする。
- ③その外側に縦15cm，横15cmの四角形を下書きし，切り抜く。
- ④②の四角形のそれぞれの辺の中心に，△の印をつける。
- ⑤マスキングテープで生徒のスケッチブックに固定する。

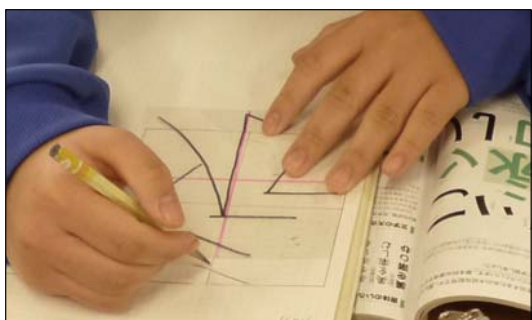
自分の書いている文字が正しく書けているかどうかを視覚的に確認する。

<透明シートの作り方>



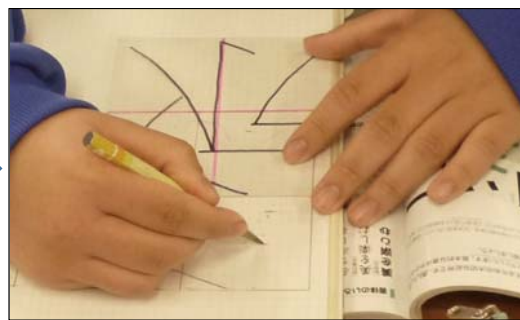
- ①何も挟まずに，ラミネートした透明シートを作る。
- ②縦12cm，横12cmの四角形を下書きをして切り取る。
- ③赤色で中心線を引く。
- ④模範となる「永」の文字を記入する。
- ⑤生徒が自分の書いた文字に重ねて，文字のバランスを確認する。

【写真1】



生徒が，自分が書いた中心線と透明シートの赤い中心線を合わせて，自分の文字の形の正しい位置を確認する。

【写真2】



透明シートを下にずらしてすぐに書くことができる。

透明シートがあることで，枠をスムーズに書くことができます。

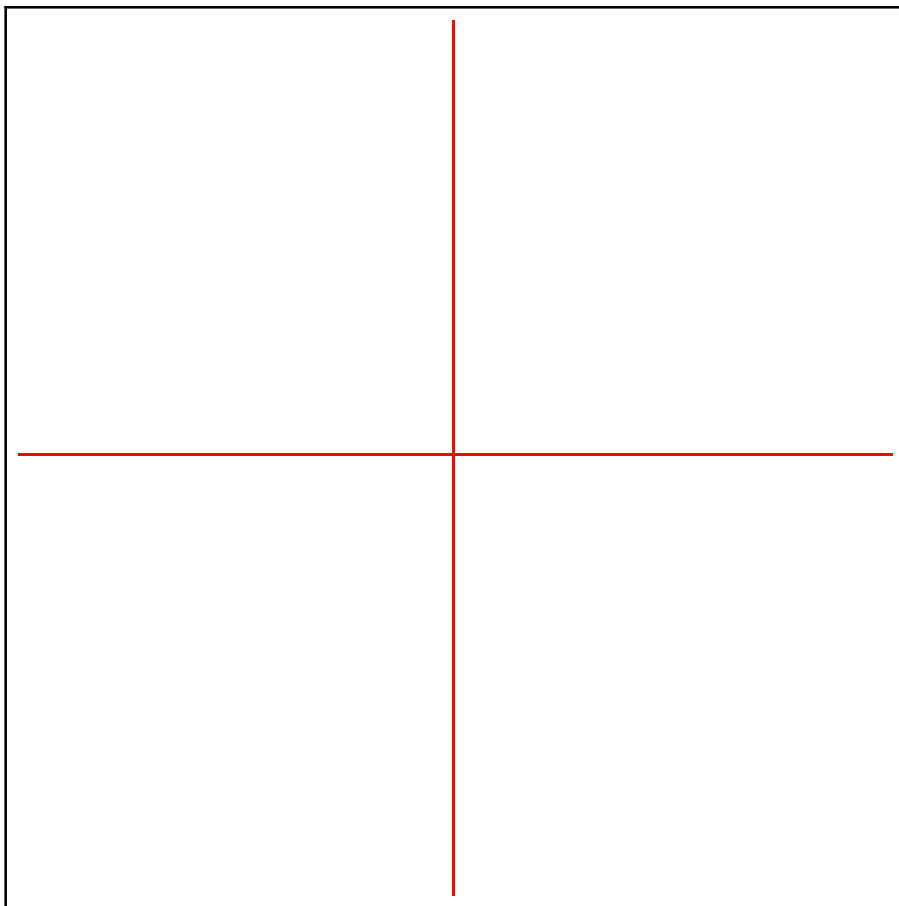
自分の書いた文字に透明シートを重ねることで，正しい文字との違い（大きさ，向き，長さ，位置関係等）を視覚的に確認することができます。また，文字の正確さを自分で確認することができるので，自主的に学習に取り組むことができます。



資料

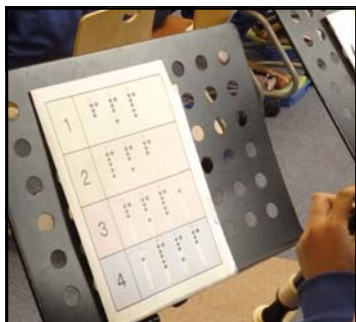
12cm 枠です。

透明シートを作成する時に使用します。コピーして使えます。



【例 3】 学習の目標をスモールステップ化して、生徒が学びやすいカードを選べるようにする。

【写真 3】



【写真 4】



アルトリコーダーの「高いラシド」を覚える学習活動では、「1 ドシラ、2 ラシド、3 ドシラソ、4 ソラシド」の4段階によって学習の課題を達成できるようにしました。学習課題を達成することができるように、運指が分かるような2種類のカード（【写真 3】，【写真 4】）を用意しました。カードがあって練習した方がよいと自ら判断した生徒は、自分の分かりやすいカードを選択して、アルトリコーダーの練習に用いました。教師の「難しいところはある？」という質問に対し、生徒がカードを指し示したことで、教師は生徒が難しいと感じている運指を理解することができました。そして、運指ができるようになるための支援を行うことができました。

【写真 5】



【写真 5】は、生徒が途中でカードを変更したい時に、教師が対応している写真です。自分が分かりやすいカードを生徒自身が選択することができるようにしました。

めあて	できるようになったこと 分かるようになったこと など	自己評価 (A~E)
アルトリコーダーの運指を覚えよう。	1, 2, 3, 4が少し分かるようになった。	A

これは、授業の終わりに生徒が記入した振り返りカードです。「1 ドシラ、2 ラシド、3 ドシラソ、4 ソラシド」の4段階のどこまでできたのかを具体的に数字で記入することで、生徒と教師がどこまで達成できたかを伝え合うことができました。

資料

実際に活用したカードです。複数のカードを用意しておくことで、生徒が学びやすいカードを選ぶことができます。印刷してすぐに使えます。

1	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">ド シ ラ</div> <div style="text-align: center;">(Ø123) (Ø1235) (Ø12345)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: flex-end; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border-left: 1px dashed black; padding-left: 5px;"> ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ </div> <div style="margin-left: 10px;"> <input type="radio"/> Ø サミング </div> </div>
2	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">ラ シ ド</div> <div style="text-align: center;">(Ø12345)(Ø1235) (Ø123)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: flex-end; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border-left: 1px dashed black; padding-left: 5px;"> ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ </div> <div style="margin-left: 10px;"> <input type="radio"/> Ø サミング </div> </div>
3	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">ド シ ラ ソ</div> <div style="text-align: center;">(Ø123)(Ø1235)(Ø12345)(2)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: flex-end; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border-left: 1px dashed black; padding-left: 5px;"> ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ </div> <div style="margin-left: 10px;"> <input type="radio"/> Ø サミング </div> </div>
4	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">ソ ラ シ ド</div> <div style="text-align: center;">(2)(Ø12345)(Ø1235)(Ø123)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: flex-end; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border-left: 1px dashed black; padding-left: 5px;"> ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ </div> <div style="margin-left: 10px;"> <input type="radio"/> Ø サミング </div> </div>

● サミング (指をずらす)

1	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>ド</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>シ</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>ラ</p> </div> </div>
2	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>ラ</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>シ</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>ド</p> </div> </div>
3	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>ド</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>シ</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>ラ</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>ソ</p> </div> </div>
4	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>ソ</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>ラ</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>シ</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>ド</p> </div> </div>

③

コミュニケーションが困難な状況での関わり方の工夫（例）

1

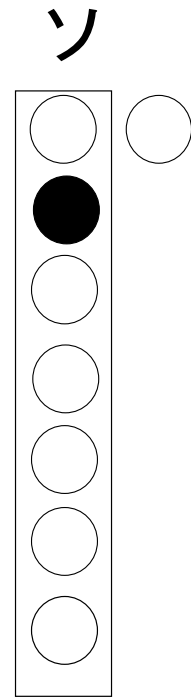
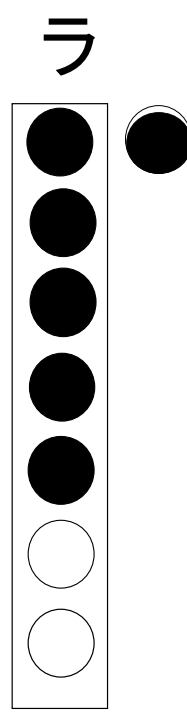
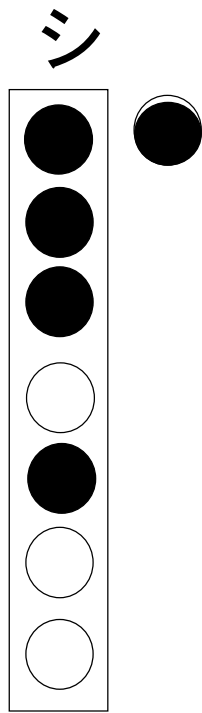
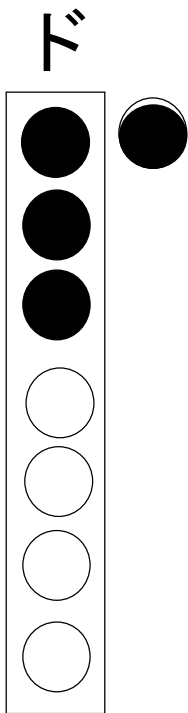
自分の思いや考えを相手に伝えることが難しい状況

ド
(Ø123)

シ
(Ø1235)

ラ
(Ø12345)

ソ
(2)



【例 4】 生徒が分からないことや質問したいことを先生に伝えられない時、文字カードを活用する。

Help

生徒が分からない時に、机に出すことで、先生に援助を求めることができます。

分かりません。教えてください。

生徒が分からない時に、このカードを机の中、またはペンケースから出し、カードを見ながら「分かりません。教えてください。」と言うこともできます。

カードは、教科担任で共通理解をすれば、どの教科でも活用できます。



資料

印刷してすぐに使えます。

Help

2 自分の思いや考えを場を考えずに話してしまう状況

自分の思いを場や状況を考えずに話してしまったことはありませんか。感情が高ぶってしまって、その勢いで話してしまった経験が一度や二度はあるのではないのでしょうか。話している時には気付かなくても、後になって、場や状況にそぐわない発言をしてしまったと思うこともあるでしょう。書類に目を通していたら気になる言葉が出てきて、注意がそがれ、関係ない書類を調べていた、会話をしているにもかかわらず全く脈絡のない話題に飛んでしまったということが起こることがあります。学校では、外からの刺激に注意を奪われやすく、キョロキョロしたり立ち歩いたりするために、教職員の注意を受けやすい生徒がいます。多動性が強く、興味に移りやすい生徒、好きなことに没頭しやすい生徒がいます。このような場合、相手の話を最後まで聞くことが難しい状況も生じることがあります。この状況については、「3 相手の話を最後まで聞くことが難しい状況」で詳しく見ていきます。



ア 考えられる困難の要因

- ・ 行動や欲求をうまくコントロールできない。
- ・ 自分の言動が、他の人にどのような影響を与えるか等、自分の行動を客観的に振り返ることが難しい。
- ・ 音声による伝え方では、話の内容以外のことに注意を向けてしまい聞き逃してしまう。
- ・ あいまいな表現や指示では状況を理解することが難しい。
- ・ 他者の気持ちを理解することが難しい。
- ・ 何をどのようにすればよいのかよく分からないため、不安である。

イ 関わり方の工夫

【例1】 生徒の考え方を支援する。

— マッピングソフトと付箋で生徒が自分の思いや考えを整理する —

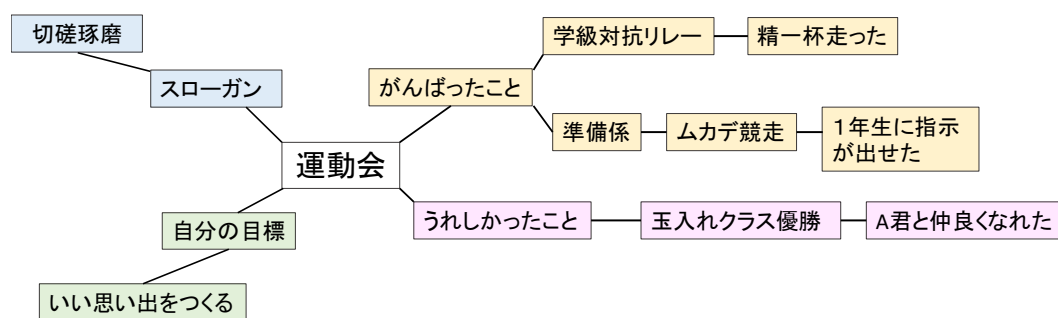
調べ学習のように、ものごとを理解し、自分の意見をまとめる課題では、考えを整理する能力が求められます。それが困難な生徒は、頭で構想を練る代わりにマッピングソフトや付箋等のツールを使って考えを整理すると、まとめやすくなります。しかし、注意点もあります。考えを図解すること自体が難しい場合があるでしょう。生徒がツールを使って混乱するようなら、私たちが代わりにソフトや付箋を使い、生徒の考えを聞き出しながら整理するとよいでしょう。

① 手書きよりパソコンが好きならマッピングソフトを使う。

ものごとを図解で整理できるのがマッピングソフトです。単語や絵を並べて、関係のあるものをつなげる等して整理する、無料ソフトのFreeMindや、有料ソフトのMindmananer, Visio等があります。

② パソコンより手書きが好きな場合は付箋を使う。

パソコンで図をつくるのが難しければ、付箋を使って、情報を整理するとよいでしょう。付箋に単語を書き、台紙に貼って、分類したり、並べかえたりして整理します。様々な色の付箋を用意し、色分けすると作業がしやすくなります。



マッピングのよい点は、こみ入った内容でも、見て分かることです。ホワイトボードペーパーや小さなホワイトボードを使って、マッピングソフトと同様の図を書く方法もあります。生徒が私たちと一緒に図を書きながら、考えをまとめることができます。



【例2】音声での伝え方(話し方)を工夫する。

次の話の内容は、場や状況を考えずに話してしまったときの対応です。次のA、B、Cの伝え方を比べてみましょう。

- A： 今は、話す時間じゃありません。先生の話聞いてからにしてください。今は先生の指示を聞く時間です。なぜ今話しかけてくるのですか？今やることが分かっているのですか？
- B： それが気になるのですね。いいですよ、分かりました。他の人はちょっと待っていてください。〇〇さんにお話をします。
- C： その話は困ります。話が終わってからにしてください。
(又は、生徒の発言の内容や状況に応じて、「先生の説明の仕方が悪かったのですね。」と言って、説明し直すことも時には必要です。)
この話は2分で終わります。

Aは、感情が高ぶり、なぜ今質問してくるのかということ、長い文章で聞き返しています。

Bの対応はどうでしょうか、場や状況を考えずに話してしまう生徒に対応しているように見えますが、その生徒の状況を、訴えがあるままに全てを容認していくだけでは、対応が不十分です。なぜなら、その他の生徒の支援がなされないまま、特定の生徒のみに対応していくと、集団としての学習が成立しなくなる可能性があります。

Cのように、同じ学習の場で、その生徒の状況を集団としての学び合いの機会にしていくことで、互いのよさを認め合える集団づくりをしていきたいものです。また、「～はダメ」とよく言ってしまいがちですが、それは注意しているだけで、言われている生徒は、どのような行動をとればよいのか分からないことがあります。それよりも、具体的な指示をすることで、きちんと行動ができ、好ましい行動を容認することができます。「これならいい、これがいいんだよ」という肯定的な伝え方を工夫するという発想の転換も必要です。

情緒的なやさしさや怒りよりもクールな明瞭さや、叱らないで済むやり方で接することができる工夫がポイントです。
大切なのは注意より指示です。指示をどう工夫するかが重要です。



【例3】 ルールを分かりやすく伝える。

具体的な場面で、相手を意識できるようにする。

- ① なぜこの場面で話してはいけないのかを、相手の立場を意識し、望ましい行動をとることができるようにする。
- ② 好きな話題は、前もって話をする時間を決めておく。

ルールを視覚化するために、カードを活用する。(絵、文字など)

静かに

好きな話は昼休みにする

- ・カードにして必要な時に見せる。
- ・スケジュール表の中に取り入れる。
- ・生活ノートに生徒が記入しておく。
- ・机に常時貼っておく。(本人の了解のもと)

口を閉じる



生徒にとって分かりやすい方法を組み合わせるのがコツです。



資料

印刷してすぐに使えます。

しず

静かに

くち と
口を閉じる



3 相手の話を最後まで聞くことが難しい状況

相手の話を最後まで聞くことができない状況になったことはありませんか。じっくり話を聞く時間がなく、相手の話の結論を急いだり、まだ相手の話が終わっていないうちに、自分の思いを相手に伝えたくなったりすることがあるのではないのでしょうか。相手の話が終わらないうちに、相手の話の中で疑問が生じたら、その場ですぐ質問をしてしまうことがあるのではないのでしょうか。相手の話している内容が分からなければ、その話に集中できず、相手の話を最後まで聞くことが難しい状況になることもあるでしょう。この状況については、「4 相手から言われていることの意味を理解することが難しい状況」を参考としてください。



ア 考えられる困難の要因

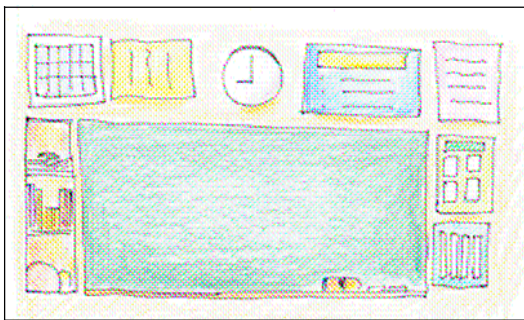
- ・自分の行動を他の人に合わせようとするのが苦手である。
- ・自分の興味のあることには、周りの状況が見えなくなるくらい没頭している。
- ・注意の集中を持続することが苦手である。
- ・話の内容を記憶して前後関係を比較したり類推したりすることが困難である。
- ・説明を聞き漏したり、最後まで聞くことができなかつたりするため、内容を理解していない。

イ 関わり方の工夫

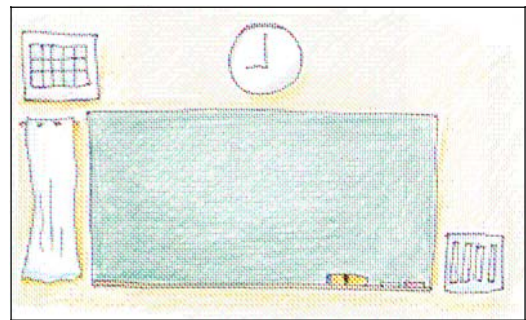
外部刺激を控え、周りの環境を調整する。

【例1】環境を調整する。

片付けられていない場所は刺激が満ちあふれています。そのため、注意を集中することが難しい場合があります。不要なものは片付ける、掲示物等を整理しておくことは大切です。



視野に入る情報が多いと、教師の指示や今やるべきことに集中することが難しいことがある。



棚にはカーテンで目隠しをする。余計な掲示物は外すか、前方ではない箇所に移動する。

環境には、視覚的な情報（掲示物、その他の物）以外にも、照明、騒音、匂い、コミュニケーションなども含まれます。生徒がどのような環境からの刺激を受けやすいか、よく観察することが大切です。



【例2】 席替えをする。

注意が集中できない生徒に対しては、席替えをしてみましょう。窓の近くの席は、外が気になりますし、後ろの席は前の生徒の動きが気になります。そこで壁側の前列に席を移してみるといった工夫が効果をあげることがあります。窓側であれば、カーテンを閉める、パーテーションを設置することを試してみるのもよいでしょう。中邑氏は、「AAC入門」の中で、コリンズの報告(2012)を次のように紹介しています。「多動な生徒に対して、ただ座りなさいと言っても、おさえられない衝動がそうさせているのであればその指示はほとんど通らないでしょう。逆にその生徒だけ席を2席設置することで落ち着いたという報告もあります。」

中学生であれば、一度席に座らせてみて、落ち着く席はどこかを話し合うこともよいでしょう。



4 相手から言われていることの意味を理解することが難しい状況

相手から言われていることの意味を理解することが困難な状況になったことはありませんか。海外へ行って、現地の人の言語が分からない状態で、その言語で話しかけられた時のことを想像してみましょう。何を言われているのか分からず、視線回避やおうむ返しをすることが私たちにも起こってきます。また、海外でなくても、ある分野の専門家が、専門用語をたくさん用いて話していても、その意味を理解することは難しくなるでしょう。相手の言っていることが早口であったり、間がなく、長い文で話されたり、主語や述語が不明確だったりしても、私たちは、話の内容を理解することが難しくなることがあります。今後の見通しが立たないために、相手から言われていることの意味を理解しにくい状況になることもあるでしょう。



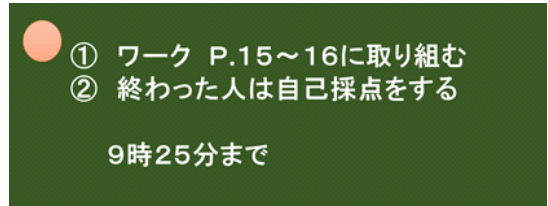
ア 考えられる困難の要因

- ・ 聞くべき音（声）に集中できない。
- ・ 聞いた内容の理解が難しい。
- ・ 聞いた内容を覚えていられない。
- ・ 言語発達の遅れがあったり、異なった意味理解をしたりする。
- ・ 手順や方法に独特のこだわりがある。
- ・ 数量や言葉等の理解が部分的であったり、偏っていたりする。
- ・ 実際に体験しなければ、行動等の意味を理解することが困難である。

イ 関わり方の工夫

【例1】 予定や進め方について音声と視覚情報によって伝えることで、生徒が学習の見通しを持ちやすくする。

- ① 毎時間、本時の流れを同じ場所に書いておく。
- ② マグネットを使って、今学習しているところを明確にする。

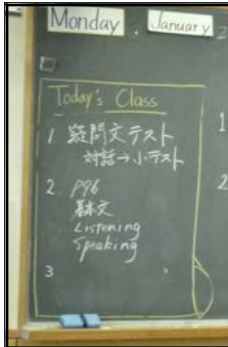


マグネットは、本時の流れの他、板書で今学習しているところにも貼ると、どこを書き写せばよいかの視覚情報になります。

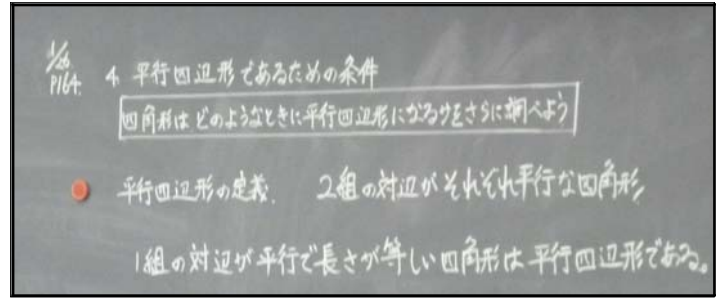


【各教科での実践例】

【写真1】



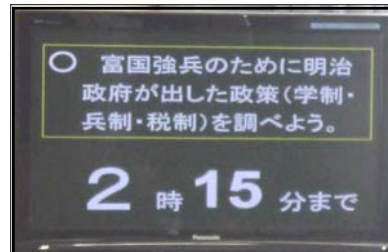
【写真2】



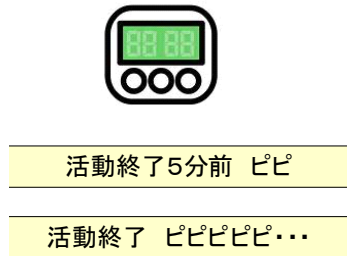
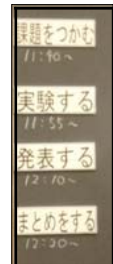
- ③ タイマーを活用したり、目安の時間を黒板に掲示したりすることで、時間の見通しを視覚化する。

【各教科の実践例】

【写真3】



【写真4】

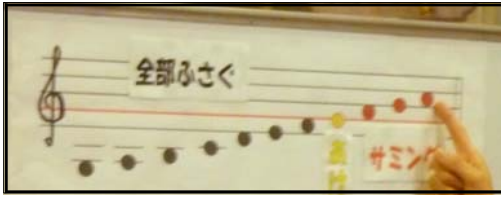


学習活動の目安の時間を音や視覚的に示すことで、見通しが持ちやすくなります。



【例2】 文字、色、記号を合わせた視覚情報を工夫して生徒に伝える。

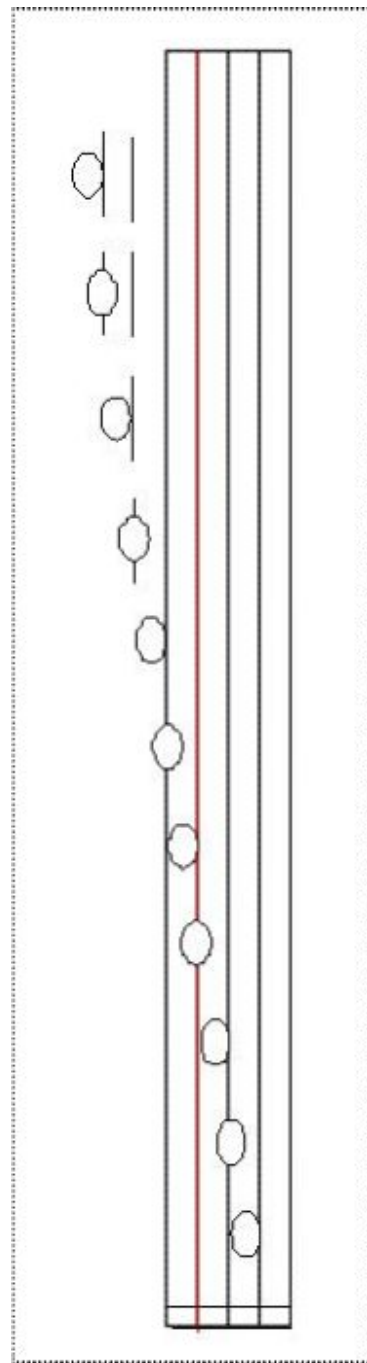
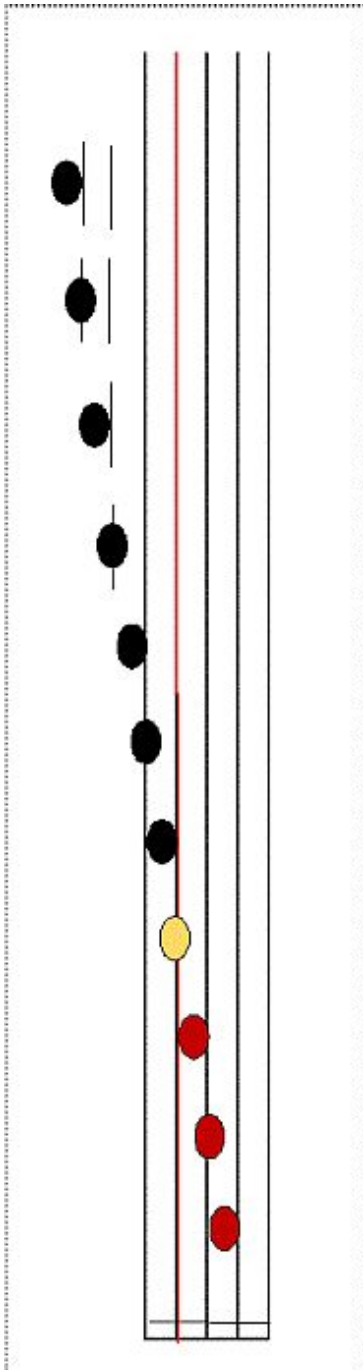
【写真5】



【写真5】は音楽の授業の掲示物です。アルトリコーダーの運指が分かりやすいように、掲示物を工夫しています。音符を色分けすることで、指使いが見て分かります。

資料

印刷してすぐに使えます。拡大したり、色を塗ったりしても使えます。



【例3】 生徒に分かりやすい話し方を工夫する。

次は、明日の準備物についての話です。AとBの伝え方を比べてみましょう。

A： 明日持ってくる物は、健康診断票とですね、個人カードですが、どちらもおうちの人に書いてもらってきてください。〇〇くん、ふざけていないで、聞いてくださいね。書いてもらうのは、おうちの人なら誰でもよいです。あと雑巾です。忘れないようにしましょう。

B： 明日の持ち物の連絡をします。
3つあります。
1健康診断票，2個人カード，3雑巾です。

〈持ってくるもの〉
健康診断票
個人カード
ぞうきん2枚

どちらが分かりやすかったでしょうか。

Aは、一文が長く、分かりにくい表現になっています。また、雑巾の枚数は、いつも雑巾は2枚集めているから、2枚だろうと予想する生徒、2枚持っていけば間違いないだろうと判断する生徒、枚数が明確でないから分からない生徒というように、生徒の捉え方も様々ではないでしょうか。

Bはどうでしょうか。まず「今から明日の持ち物の連絡をします。」ということで、聞く構えを作っています。次に、大事なところを明確に、要点だけを伝えています。さらに、持ってくる物を黒板に文字で示すことで、音声と文字両方で、生徒の理解を促すことができます。

順序よく整理して話し、途中で関係のないことは言わないことがコツです。

指示は、簡潔に伝えられるように心がけましょう。



【例4】 学習形態を工夫する。

【写真6】



英語の授業の導入です。生徒が基本文を使った対話を暗記します。暗記した基本文を生徒が教師（T1, T2, ALTいずれか）に話します。話した内容を教師が確認し、暗記できた場合は、シールをその場で生徒に渡します。生徒はシール台帳に貼ります。この活動をルーティン化することで、全ての生徒がこのセクションで学ぶ基本文型を言えたという達成感を持つことができるようになっています。

【写真7】



教師が話す英語の意味を理解しやすいように、写真を用いて説明しています。

【写真8】



ALTのフラッシュカードを用いたテンポのよい発音の後に、T1とT2が大きな声で後ろから繰り返し発音することで、生徒が自信を持って発音できるよう配慮しています。

資料

印刷してすぐ使えます。 シール台帳(例)

年 組		
名前()		

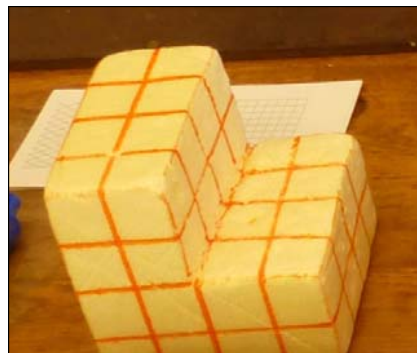
【例5】 実物や模型を使って説明する。

【写真9】



理科の授業で、立体模型を用いて、ストローとティッシュペーパーの静電気を説明しています。

【写真10】



技術・家庭（技術分野）の授業で用いているキャビネット図の立体模型です。説明をする時に用いたり、生徒が形を確認したりすることができます。

教科書とノートは平面ですが、学習内容には、立体を扱ったものも多く掲載されています。教職員が、立体模型を用いて説明すると、生徒が理解しやすい状況になります。また、立体模型を生徒が見たり、触ったり、動かしてみることで、理解しやすくなることもあります。



【例6】 文字を用いて伝えることを支援する。
—テキスト入力専用の機器を持ち歩く—

学校での利用に向くテキスト入力機器について

学校の対応次第で、使える機器が変わってきます。タブレット型端末やスマートフォン、電子辞書等の使用許可があれば、それらを使うことができます。インターネットやゲームができないテキスト入力専用の小さな機器で、文章を作成できるものがあります。ただし、キーボードでローマ字入力をするためには、ローマ字の理解が必要になります。そのため、音韻認識の苦手な生徒には難しい場合があります。また、手作業が苦手な書字に苦しんでいる生徒は、ブラインドタッチに苦労する場合があります。スマートフォンの文字入力機能を使う、ICレコーダーで音声データをつくる等、別の方法も考えられます。

テキスト入力機器を学校で使えるかどうかは、本人、保護者、学校での合意形成のもと、検討することが大切です。



【例7】 生徒の記憶を支援する。
—生徒が板書を書き写すことを軽減する—

- ① 課題，キーワード，まとめは書き写すことを基本にする。
 (教科ごとに担当者が配慮する。)
- ② 書き込み学習プリントを活用する。

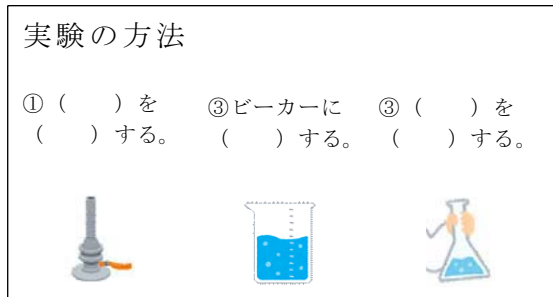
【理科の実験の方法を記入する欄の工夫】

ア 実験のイラストのみ掲載する。



イ 実験のイラストと教科書の文章を掲載する。

※ 重要な箇所を空欄にしておき，生徒が記入する。



文字を書く量を調整したプリントをいくつか用意しておくことで，生徒は自分が学びやすいプリントを選ぶことができます。



※ 書き込み学習プリントを拡大し，黒板に掲示すると，学習内容の確認にも活用できる。

それでも板書を書き写すことが難しい時には…

- ③ 黒板をデジタルカメラなどで撮影して活用する。

初めからすぐに黒板を撮影してしまうのではなく，撮影しないのできる方法を検討します。



【例8】 生徒の記憶を支援する。 —覚えなくてボイスレコーダーを使う—

記憶の助けになる機器はたくさんありますが、使いやすいのはボイスレコーダーやスマートフォンの録音機能です。重要なことはすぐに録音できます。思い出す時も、音声で聞けるので、読み書きどちらにも困難さがある状況で活用できます。音声で記録するより画像で記録した方が忘れない場合は、デジタルカメラを使うことができます。スマートフォンを持っていると、すぐに家族にメールで送ることもできます。しかし、活用する時の注意点もあります。とにかく何でも記録するという姿勢でいると、記録が多すぎて、何が重要か分からなくなりがちです。日時や場所、持ち物等重要なことだけを、簡潔に記録する習慣をつけることが重要です。

覚えること自体が困難である、書くことが困難で連絡事項を書き取れない、聞き取ることが困難で、大事な話を聞き漏らす等の状況で活用することができます。努力しても改善しなければ、支援ツールを使う方法もあります。記憶をデータ化してサーバーにおくことで、いつでも確認することができます。



コラム

授業のユニバーサルデザイン どの子も楽しく「わかる・できる」授業

誰にでも起こりうる問題がグラデーションのように、濃く出ている子と、薄く出ている子、全然出てこない子がいるだけ、（中略）よい授業は、その連続体の中にいるすべての子たちにとってよくないわけがない、ということなんです。

授業に参加するだけでなく、理解できるようにしたい

授業をユニバーサルデザイン化するためのキーワード 「焦点化」「視覚化」「共有化」

「焦点化」：子どもたちが「わかった」とか「できた」という瞬間を授業のどこに置か。

「視覚化」：情報伝達の工夫を行う。考えることを支援するための工夫でもある。

「共有化」：子どもがペアやグループで考えを伝えあったり、教え合ったりすること。

「学び合い」という言葉などで使われていることも多い。ほかの子の考えをもとに自分の考えを発展させたり、自分の意見を言葉にすることで理解を深めたり、助言をえられたりできる。聞くだけの時間を減らす、充実させるというのは、言い方を変えれば「考える時間を増やす」ということです。

〈引用文献〉 小貫悟編著 「授業のユニバーサルデザイン入門」 東洋館 平成26年7月

5 相手の言葉を字義通りに受け止めてしまう状況

相手に言われたことに対して真面目に答えたのに、笑われた経験はありませんか。これまでの自分の経験から、周囲の状況を判断して、相手の言葉に含まれた意味を推測して行動することもあります。常にそうできる時ばかりではありません。相手の言葉を字義通りに受け止めてしまうと、例えば、「忘れずに、花に水をあげてね。」と頼まれていて、雨の日に水をあげてしまったり、「電源を切って。」と言われて電源コードをハサミで切ってしまうたりということが起こってきます。本人は、真面目に言われたことをやっているのに、なぜ周囲が騒ぐのか理解できず苦しんでいます。本人にしか分からない苦しさがあると共感的に理解しながら支援を進めることが大切です。



ア 考えられる困難の要因

- ・ 相手から言われていることを受容したり、理解したりすることが難しい。
- ・ 自分から表現し、伝えることが難しい。
- ・ 他人との社会的関係の形成が難しい。
- ・ 言葉の発達の遅れがある。
- ・ 興味や関心が狭く特定のものにこだわる。

イ 関わり方の工夫

視覚的支援を工夫する。

【例1】環境を構造化する。

門真一郎氏は、自閉症スペクトラムの人への支援の基本として、「構造化とは、その場の状況に最も適切な意味と見通しを明確に伝えることである。場面に構造がないから構造をつくるということではなく、自閉症スペクトラムの人が捉えている構造（意味と見通し）が、周囲の人たちが捉えている構造とはずれることが往々にしてある。ずれている場合に、『この場面ではこういう構造を汲み取って欲しい』ということをして、自閉症スペクトラムの人に伝える方法が、構造（明確）化、特に視覚的構造（明確）化である。構造化による指導が効果的であることは、すでに1970年代には実証されており、それを体系的に発展させたのが米国ノースカロライナ州のTEACCHプログラムである。」と示しています。

「全体より部分の認知に強い」とか「聴覚情報処理よりも視覚情報処理の方が強い」という特性を理解して、適切な配慮や工夫をするのが原則です。



TEACCHでの構造化の重要な要素

【空間の構造化】

学習，作業，日常生活，余暇活動などを行うときに，各活動を行うための領域とその境界を視覚的にはっきりさせる。それにより，これからそこで行う活動について，活動と活動の関係について，理解し思い出しやすくなる。空間の構造化とは言うものの，これによりこれからの見通しが立ちやすくなるという点では，本質的には時間の構造化と言える。

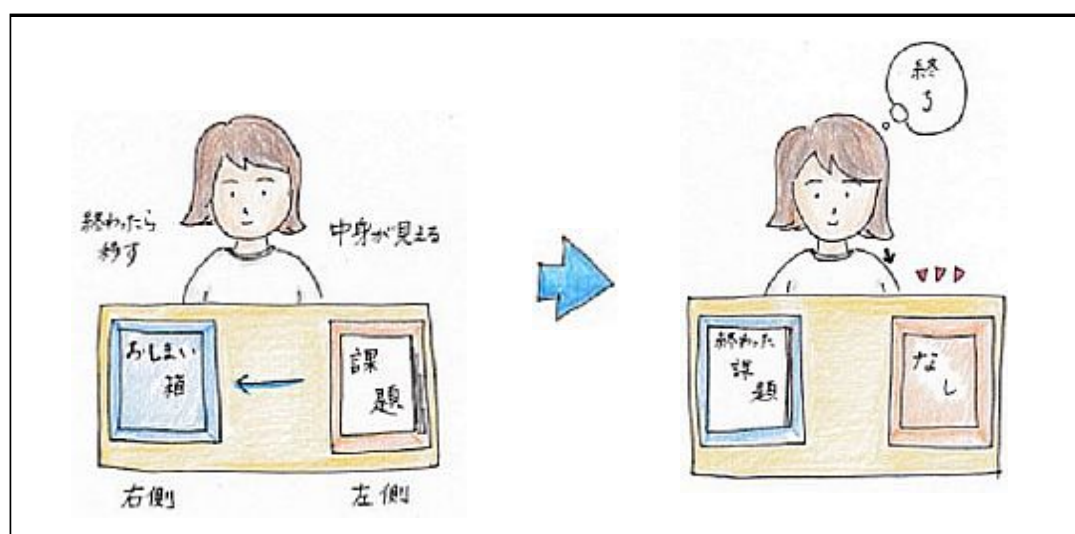
【時間の構造化】

時間の構造化は主に視覚的スケジュールを用いて行う。これにより，いつ，どこで，どんな活動をするのかが理解しやすくなる。さらにスケジュールによって，次の活動は何か，どういう順序かということも分かる。スケジュールを使用することで，これからの活動を予期し，心の準備をすることができ，不安や混乱を予防できる。視覚的なスケジュールは，ことばでスケジュールが伝えられるときほどの記憶力を必要としない。

【手順の構造化(ワークシステム)】

何をどれだけするのか、いつまでにやるのか、どうなったら終わりになるのか、終わったら次はどうすればよいか、などを伝えるのが、「手順の構造化」あるいは「ワークシステム」である。個々のワークシステムは、少なくとも次の3つの重要な情報を伝えてくれる。

- ① 課題箱の中の教材が容易に見えることで、どんな課題をするのかが分かる。
- ② 課題箱は常に左側に置き、中身も見えるので、どのくらいの量の課題かが容易に分かる。
- ③ 課題箱の中の課題をやり終えたら、常に右側のおしまい箱に移すという流れにするので、いつ終わりになるのかが分かる。



【課題の組織化(タスク・オーガナイズーション)】

一つ一つの課題のやり方を視覚的に分かりやすく提示し、自主的に遂行していくことができるようにする。

どのように行うのかという「方法・手順」を、分かりやすく説明する。作業課題を分析して、スモールステップに分け、生徒が分かりやすく図式化したり、段階ごとの実物を見ることができるようにした。

(例)

- ・ 左から右へ作業を進めることを習慣にしておくことで、様々な課題遂行が可能になる。
- ・ 数を数えることができなくても、そこに並べれば自然と決められた数になるような補助具を活用することで、数を数えることが可能になる。
- ・ 視覚的な手がかりを活用することで、歯磨きやトイレ、手洗い等の日常行為が可能になる。

【建設的なルーチン】

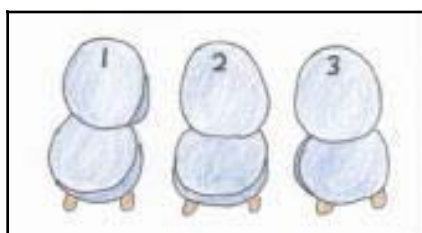
構造化するにあたっては，自閉症スペクトラムの人がルーチンに親和性が高いということを最大限に生かす。それぞれの生徒に最も役に立つよう修正したり，徐々になくしていくなどの柔軟性も必要だが，一貫性ということが，自閉症スペクトラムの人たちの問題解決の能力の不足を補ってくれる。



椅子に座ってください。
（どの椅子に座ればいいのか分からない。）



赤い椅子に座ってください。
（どの椅子に座ればいいのか明確である。）



2番の椅子に座ってください。
（どの椅子に座ればいいのか明確である。）

【例2】 生徒のコミュニケーションの表出を補助する。

自分の意思を視覚的に表現できるように条件整備をする。門氏は、「あるアスペルガー症候群の当事者が、『写真を指差した方がよほど用は足せる。言葉があればエラいっていうわけじゃない。用が足せることのほうが大事ではないか』と書いてあるように、音声言語の有無よりも、コミュニケーションが成立するかどうかの方が重要である。」と述べています。

大切なのはコミュニケーションの成立



これまでの研究からPECS (BondyとFrostが開発したPicture Exchange Communication Systemのこと)【絵カード交換式コミュニケーション・システム】を含め、AAC (Augmentative and Alternative Communicationのこと)【拡大・代替コミュニケーション(音声言語とは別の手段を使う、あるいは音声言語を補強するコミュニケーション)】を用いることで、言葉の発達を抑えないどころか、むしろ言葉の発達や上達を促すことが明らかになっています。



〈引用文献〉 門 眞一郎 「自閉症スペクトラムの人への支援の基本—コミュニケーションスキルの発達促進」 医学のあゆみ 平成18年

[資料]

ここでは、

- 1 合理的配慮の観点について
- 2 発達障害について

掲載しています。



1 合理的配慮の観点について

<「合理的配慮」の観点 ○1 教育内容・方法>

<○1-1 教育内容>

○1-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮

障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するため、また、個性や障害の特性に応じて、その持てる力を高めるため、必要な知識、技能、態度、習慣を身に付けられるよう支援する。

○1-1-2 学習内容の変更・調整

認知の特性、身体の動き等に応じて、具体の学習活動の内容や量、評価の方法等を工夫する。障害の状態、発達の段階、年齢等を考慮しつつ、卒業後の生活や進路を見据えた学習内容を考慮するとともに、学習過程において人間関係を広げることや自己選択・自己判断の機会を増やすこと等に留意する。

<○1-2 教育方法>

○1-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮

障害の状態等に応じた情報保障やコミュニケーションの方法について配慮するとともに、教材（ICT及び補助用具を含む）の活用について配慮する。

○1-2-2 学習機会や体験の確保

治療のため学習空白が生じることや障害の状態により経験が不足することに対し、学習機会や体験を確保する方法を工夫する。また、感覚と体験を総合的に活用できる学習活動を通じて概念形成を促進する。さらに、入学試験やその他の試験において配慮する。

○1-2-3 心理面・健康面の配慮

適切な人間関係を構築するため、集団におけるコミュニケーションについて配慮するとともに、他の幼児児童生徒が障害について理解を深めることができるようにする。学習に見通しが持てるようにしたり、周囲の状況を判断できるようにしたりして心理的不安を取り除く。また、健康状態により、学習内容・方法を柔軟に調整し、障害に起因した不安感や孤独感を解消し自己肯定感を高める。

学習の予定や進め方を分かりやすい方法で知らせておくことや、それを確認できるようにすることで、心理的不安を取り除くとともに、周囲の状況を判断できるようにする。

<「合理的配慮」の観点 ○2 支援体制>

○2-1 専門性のある指導体制の整備

校長がリーダーシップを発揮し、学校全体として専門性のある指導体制を確保することに努める。そのため、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成するなどにより、学校内外の関係者の共通理解を図るとともに、役割分担を行う。また、学習の場面等を考慮した校内の役割分担を行う。

必要に応じ、適切な人的配置（支援員等）を行うほか、学校内外の教育資源（通級による指導や特別支援学級、特別支援学校のセンター的機能、専門家チーム等による助言等）の活用や医療、保健、福祉、労働等関係機関との連携を行う。

○2-2 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮

障害のある幼児児童生徒に関して、障害によって日常生活や学習場面において様々な困難が生じることについて周囲の幼児児童生徒の理解啓発を図る。共生の理念を涵養するため、障害のある幼児児童生徒の集団参加の方法について、障害のない幼児児童生徒が考え実践する機会や障害のある幼児児童生徒自身が障害について周囲の人に理解を広げる方法等を考え実践する機会を設定する。また、保護者、地域に対しても理解啓発を図るための活動を行う。

○2-3 災害時等の支援体制の整備

災害時等の対応について、障害のある幼児児童生徒の状態を考慮し、危機の予測、避難方法、災害時の人的体制等、災害時体制マニュアルを整備する。また、災害時等における対応が十分にできるよう、避難訓練等の取組に当たっては、一人一人の障害の状態等を考慮する。

<「合理的配慮」の観点 ○3 施設・設備>

○3-1 校内環境のバリアフリー化

障害のある幼児児童生徒が安全かつ円滑に学校生活を送ることができるよう、障害の状態等に応じた環境にするために、スロープや手すり、便所、出入口、エレベーター等について施設の整備を計画する際に配慮する。また、既存の学校施設のバリアフリー化についても、障害のある幼児児童生徒の在籍状況等を踏まえ、

学校施設に関する合理的な整備計画を策定し、計画的にバリアフリー化を推進できるように配慮する。

○3-2 発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮

幼児児童生徒一人一人が障害の状態等に応じ、十分に学習に取り組めるよう、必要に応じて様々な教育機器等の導入や施設の整備を行う。また、一人一人の障害の状態、障害の特性、認知特性、体の動き、感覚等に応じて、その持てる能力を最大限活用して自主的、自発的に学習や生活ができるよう、各教室等の施設・設備について、分かりやすさ等に配慮を行うとともに、日照、室温、音の影響等に配慮する。さらに、心のケアを必要とする幼児児童生徒への配慮を行う。

○3-3 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮

災害時等への対応のため、障害の状態等に応じた施設・設備を整備する。

「中央教育審議会初等中等教育分科会「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)」(平成24年7月23日)

2 発達障害について

発達障害

「自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるもの」と定義されている。

発達障害者支援法（平成十六年十二月十日法律第百六十七号）より

高機能自閉症の定義 <High-Functioning Autism>

（平成15年3月の「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」参考資料より抜粋）

高機能自閉症とは、3歳位までに現れ、1 他人との社会的関係の形成の困難さ、2 言葉の発達の遅れ、3 興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害である自閉症のうち、知的発達の遅れを伴わないものをいう。

また、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される。

学習障害（LD）の定義 <Learning Disabilities>

（平成11年7月の「学習障害児に対する指導について（報告）」より抜粋）

学習障害とは、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すものである。

学習障害は、その原因として、中枢神経系に何らかの機能障害があると推定されるが、視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などの障害や、環境的な要因が直接の原因となるものではない。

注意欠陥／多動性障害（ADHD）の定義 <Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder>

（平成15年3月の「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」参考資料より抜粋）

ADHDとは、年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、及び／又は衝動性、多動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすものである。

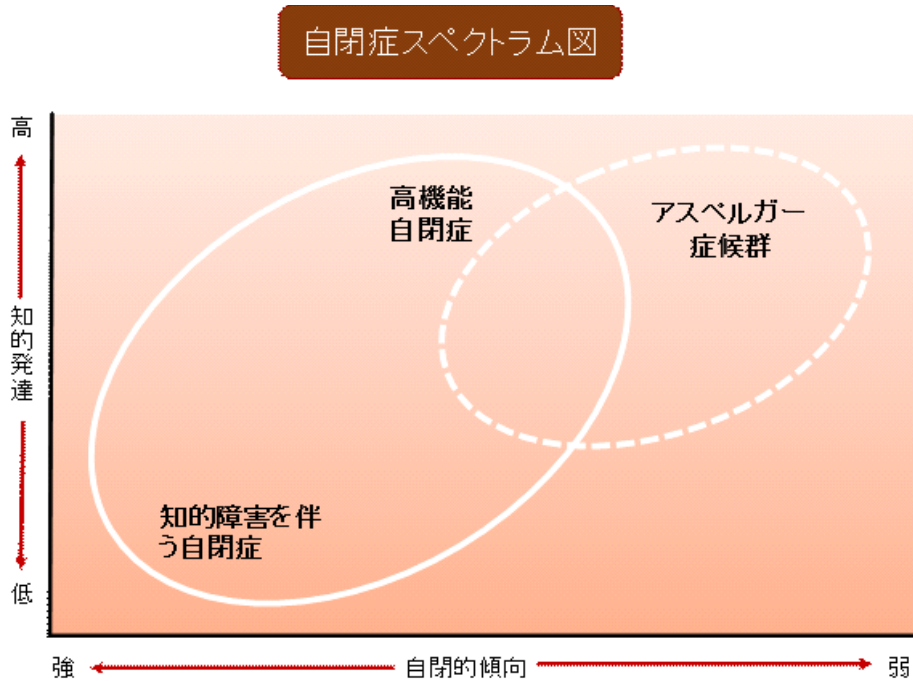
また、7歳以前に現れ、その状態が継続し、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される。

※アスペルガー症候群とは、知的発達の遅れを伴わず、かつ、自閉症の特徴のうち言葉の発達の遅れを伴わないものである。なお、高機能自閉症やアスペルガー症候群は、広汎性発達障害に分類されるものである。

文部科学省「特別支援教育について 主な発達障害の定義について」
文部科学省「教育支援資料～障害のある子供の就学手続きと早期からの一貫した支援の充実～」平成 25 年 10 月

【自閉症スペクトラムとは】

知的障害を伴う自閉症から、高機能自閉症、アスペルガー症候群、さらに自閉性障害のない状態までを境界線を設けず、「連続体」（スペクトラム）としてとらえる考え方である。



自閉症スペクトラムという概念のメリット

個々の障害を区別しない



子どもの状態を的確にとらえられる



一人一人に応じた支援が行える

子ども自身、日々発達し、支援を受けるなかで変化していきます。いま現在の子どもと向き合い、その子が抱えている困難が何であるかを把握し、その困難を解消する支援を行うことが重要です。たとえ、その支援が障害名と関連付けにくいものであったとしても、子どもが必要としている支援をその都度見直していくことが求められます。

一人一人の子どもを個別に理解するという意味で、自閉症スペクトラムというとらえ方は重要だといえるでしょう。

〈引用文献〉 榊原洋一 「図解よくわかる発達障害の子どもたち」 ナツメ社 平成 25 年 2 月

コラム

診断より支援を先にする「RTIモデル」とは？

診断を得るには多くの検査を受けるため、時間がかかります。その間、支援がなければ、子どもは学ぶチャンスを逃してしまいます。

それよりも、学習のつまずきをみて、専門家や親、教師が、その子にあった学習環境を整え、それでも困難が残り続けるかどうかをみていくほうが合理的です。その結果を障害の状況の判断につなげることで、支援と同時にアセスメント（評価）ができる点でも合理的です。そうした考え方を「RTIモデル」といいます。

RTIはResponse To Interventionの略。
Intervention(介入)に対する子どもの反応
(Response)にもとづいて対応すること。

〈引用文献〉 中邑賢龍編著 「発達障害の子を育てる本」 明治図書 平成24年 9 月

RTIを要約すれば、学力もしくは行動面で困難をもつ児童の早期判断のための多段階アプローチである。まず（第Ⅰ段階）学業に失敗する危険性のある生徒を判断する一般的スクリーニングとして、RTIは通常の学級でのすべての生徒に対する望ましい指導提供から始められる。失敗する危険度の在る生徒（つまり教室ですべての生徒に提供される指導では効果のなかった者）には、通常の標準的な手順（第Ⅱ段階）によって科学的な指導が供与される。この第Ⅱ段階で用意された指導に生徒が期待される反応をしなければ、望ましい反応が達成されるまでさらなる追加の指導が用意される。

〈引用文献〉 上野一彦編著 「特別支援教育 基本用語100」 日本文化科学社 平成26年 3 月

次の参考は、医学の領域の動向です。



参考

2013年、米国精神医学会による精神障害の分類と診断基準の本の改訂版（第5版）（Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders 5th ed., DSM-5）が刊行された。このDSM-5では、広汎性発達障害 pervasive developmental disorders, PDDの用語が自閉症スペクトラム障害 autism spectrum disorder, ASDという用語に変更された。自閉症スペクトラムとは、自閉的な特徴がある人は、知能障害などその他の問題の有無・程度にかかわらず、その状況に応じて支援を必要とし、その点では自閉症やアスペルガー症候群などと区分しなくてよいという意味と、自閉症やアスペルガー症候群などの広汎性発達障害の下位分類の状態はそれぞれ独立したものではなく状態像として連続している一つのものと考えられることができるという二つの意味合いが含まれた概念である。したがって、自閉症スペクトラム障害には下位分類がなく、自閉的な特徴のある子供は全て自閉症スペクトラム障害の診断名となる。

文部科学省「教育支援資料～障害のある子供の就学手続きと早期からの一貫した支援の充実～」平成25年10月

※なお、日本での、平成26年に出たDSM-5病名・用語翻訳ガイドラインでは、Autism Spectrum Disorderは、「自閉スペクトラム症／自閉症スペクトラム障害」と訳されている。

コラム

飛び跳ねる思考 — 挨拶 —

僕は、上手に挨拶ができません。言葉をうまく話せないためです。知っている人にさえ、挨拶できないことがあります。挨拶が僕にとって、とても難しいコミュニケーションだからだと思います。人を見かけたら「こんにちは」を言うだけのどこが難しいのか、みんなは不思議に感じるでしょう。僕には、人が見えていないのです。

人も風景の一部となって、僕の目に飛び込んでくるからです。
山も木も建物も鳥も、全てのものが一斉に、僕に話しかけてくる感じなのです。

それら全てを相手にすることは、もちろんできませんから、その時、一番関心のあるものに心を動かされます。（中略）

挨拶は、人間関係の基本だと考えている人がいるかもしれませんが、しかし、挨拶とは、「好意を持っています」という合図のようなものではないでしょうか。

問題はどんなふうに好意を持っているかを伝え合うことなので、それができなければ、挨拶ができてあまり意味がないことを、話せない人ほどよく分かっています。

挨拶をされて嬉しいのは、話せない人ではなく、話せる人のほうかもしれません。話せる人は挨拶をきっかけにして、僕に質問を投げかけてきます。そして、答えが返ってこないのが、がっかりした顔をするのです。

そんな様子に傷つきながら、僕はまた道端の草に心を寄せ、青い空に思いをはせるのです。

〈引用文献〉 東田直樹著 「飛び跳ねる思考」 イーストプレス 平成26年9月

※自閉症当事者の図書です。

話し言葉で意思を表出していなくても、思いがないわけではありません。東田さんは、文字のポインティングにより、自分の意思を表出しています。



〈引用文献〉

- 文部科学省 「中央教育審議会初等中等教育分科会「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)」
平成24年7月23日
- 文部科学省 「特別支援教育について 主な発達障害の定義について」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/004/008/001.htm
- 文部科学省 「教育支援資料～障害のある子供の就学手続きと早期からの一貫した支援の充実～」
平成25年10月
- 文部科学省 「障害のある児童生徒の教材の充実について 報告」
平成25年8月28日
- 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所
「LD・ADHD・高機能自閉症の子どもの指導ガイド」
平成25年4月
- 精神科病名検討連絡会 「DSM-5病名・用語翻訳ガイドライン(初版)」
精神誌(2014)116巻6号
- 中邑賢龍著 「AAC入門 コミュニケーションに困難を抱える人とのコミュニケーションの技法」 ころりソースブック出版会 平成26年5月
- 中邑賢龍編著 「バリアフリー・コンフリクト」 東京大学出版会
平成24年8月
- 中邑賢龍編著 「タブレットPC・スマホ時代の子どもの教育」 明治図書
平成25年5月
- 中邑賢龍編著 「発達障害の子を育てる本」 講談社 平成24年9月
- 上野一彦編著 「軽度発達障害の教育 LD・ADHD・高機能PDD等への特別支援」 日本文化科学社 平成19年9月
- 上野一彦編著 「特別支援教育基本用語100」 日本文化科学社 平成26年3月
- 小貫悟編著 「授業のユニバーサルデザイン入門」 東洋館 平成26年7月
- 東田直樹著 「飛び跳ねる思考」 イーストプレス 平成26年9月
- 榊原洋一著 「図解よくわかる発達障害の子どもたち」 ナツメ社
平成25年2月
- 尾崎洋一郎編著 「高機能自閉症・アスペルガー症候群及びその周辺の子どもたち—特性に対する対応を考える—」 同成社
平成17年5月
- 門眞一郎著 「自閉症スペクトラムの人への支援の基本—コミュニケーションスキルの発達促進」 医学のあゆみ 平成18年

〈参考文献〉

- 文部科学省 「中学校学習指導要領解説総則編」 平成20年9月
- 文部科学省 「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部・高等部)」 平成21年6月

- 独立行政法人 国立特別支教育援総合研究所
インクルーシブ教育システム構築支援データベース
<http://inclusive.nise.go.jp/>
- 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所
「共に学び合うインクルーシブ教育システム構築に向けた幼児児童生徒への配慮・事例集」 ジアース教育新社 平成26年2月
- 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所
「すべての教員のためのインクルーシブ教育システム構築研修ガイド」 ジアース教育新社 平成26年2月
- 独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構
障害者雇用マニュアルコミック版 平成26年7月
- 岩手大学教育学部 「平成25年度 岩手大学教育学部附属学校 ユニバーサルデザイン授業実践事例集」 平成26年1月
- 茨城県教育研修センター 「特別支援学級スタート応援ブック【授業づくり編】」 平成25年3月
- 全国心身障害児福祉財団 「インクルーシブ教育システムにおける特別支援学校の未来」 平成25年3月
- 上野一彦編著 「特別支援教育の理論と実践 II 指導」 金剛出版 平成24年5月
- 須田正信編著 「合理的配慮の視点でつくる！特別支援教育の授業づくり&指導案作成ガイド」 明治図書 平成26年8月
- 尾崎洋一郎編著 「学習障害（LD）及びその周辺の子どもたち—特性に対する対応を考える—」 同成社 平成20年11月
- 尾崎洋一郎編著 「ADHD及びその周辺の子どもたち—特性に対する対応を考える—」 同成社 平成20年3月
- 尾崎洋一郎著 「発達障害とその周辺の子どもたち—発達促進の基礎知識—」 同成社 平成19年12月
- 田中康夫著 「発達障害の子どもの心と行動がわかる本」 西東社 平成26年6月
- 河野俊寛著 「読み書き障害のある子どもへのサポートQ&A」 読書工房 平成24年11月
- 阿部利彦著 「通常学級のユニバーサルデザイン プランzero」 東洋館出版社 平成26年9月
- 渡辺圭太郎編著 「発達障害のある子へのサポート事例集 中学校編」 ナツメ社 平成24年4月
- 中山和彦編著 「図解よくわかる 思春期の発達障害」 ナツメ社 平成26年6月
- 西村修一著 「合理的配慮とICFの活用 インクルーシブ教育実現への射程」 クリエイツかもがわ 平成26年7月

桂聖編著 「授業のユニバーサルデザインを目指す「安心」「刺激」でつくる学級
経営マニュアル」 東洋館 平成26年3月

キャロルグレイ著 「コミック会話 自閉症等発達障害のある子どものためのコ
ミュニケーション支援法」 明石書店 平成17年5月

おわりに 支援ガイドブックの作成によせて

平成26年度茨城県教育研修センター長期研修生として「生徒の特性に応じたコミュニケーション能力を引き出す支援の在り方―合理的配慮を踏まえた支援ガイドブックの作成をとおして―」という研究主題のもとに、6か月間研究に取り組んで参りました。

この6か月間、諸先生方に御指導頂きながら、充実した研修を行うことができました。

研究を進めるに当たりましては、鈴木栄子特別支援教育課長、担当の館美穂子指導主事、副担当の奥岡智博指導主事、また、特別支援教育課の外山薫指導主事、大木勉指導主事の専門的な御指導により、研究の方向性が明確になり、主題に迫ることができました。

最後になりましたが、校務御多用の中、お力添えをいただきました大洗町立南中学校の諸先生方に深く感謝申し上げます。

平成27年3月24日

大洗町立南中学校 兼巻 照美

合理的配慮を踏まえた支援ガイドブック

平成26年度 長期研修（特別支援教育）

生徒の特性に応じたコミュニケーション能力を引き出す支援の在り方
—合理的配慮を踏まえた支援ガイドブックの作成を通して—

平成27年 3月

作成者 大洗町立南中学校 兼巻 照美



支援ガイドブックの内容構成

- ① コミュニケーションが困難な状況の理解
- ② 合理的配慮の考え方
- ③ コミュニケーションが困難な状況での関わり方の工夫(例)

[資料]